

USER MANUAL
日本語取扱説明書

EVOS

ECLEREO
AUDIO CREATIVE POWER

目次

1. 重要な記述	03
2. イントロダクション	04
3. 本体の設置と準備	05
4. クイックスタート	08
5. EVO5 のオペレーションと使い方	14
6. エフェクトプロセッサ	19
7. インターナル・サウンドカード	23
8. MIDIコントロール	24
9. セッティングメニュー	28
10. ミキサーのセットアップ	31
11. より楽しくお使いいただくために	32
12. エクスターナルソフトウェア：EVO5 Librarian / EVO5 Firmware のアップグレード	33
13. 本製品の技術的仕様	35
14. 各種機能の一覧	36
15. ファンクションダイアグラム	37
16. コンフィギュレーションダイアグラム	38
17. ブロックダイアグラム	39

1. 重要な記述

★EVO5 のパフォーマンスを最大限に活かすために、常に最新のファームウェアを ECLER サイト からダウンロードしてお使いになることをお勧めします。

ライセンス

この製品は GPL/LGPL をはじめとするライセンスに属するソフトウェアを含んでいます。

詳しい情報は<http://www.ecler.es/gnu/evo5> でご覧になれます。

1.1. 安全に関するインストラクション

本製品を末永く、安全にご使用いただくため、電源を含むすべてのケーブルを本体に接続する前にこの日本語取扱説明書をよくお読みください。この説明書には今後使用する上でのさまざまなエッセンシャルが細やかに記述されています。

もし、ご不明な点が生じた場合はご遠慮なく お求めの販売店もしくは輸入元カスタマーサポート へご連絡ください。また、製品に不具合や不調がある場合は決してご自身で修理を試みず、お近くの販売店に本体をお持込の上ご相談ください。



本体に同梱されている電源ケーブルはアースつき平行仕様となっています。アースの取れる場所においては極力アースをとるようにして下さい。

本体にいかなる液体を混入させたり、また雨や高温多湿の場所を避けるようにして下さい。

また、本体を長期間使用しないときは、本体の電源プラグをはじめすべての接続ケーブルを抜いてください。



CAUTION: RISK OF ELECTRIC SHOCK. DO NOT OPEN.

1.2. 製品の保証とアフターサービス

この製品はスペインの ECLER 社で生産され、ECLER がもつ厳しい製品検査を経て出荷され、また国内到着後当社の厳密な検査にも合格した上で出荷されたものです。しかしながらご使用中に万一製造上の不備による故障が発生した場合は、製品に同梱している保証書に記載された保証規定に従い保証期間に限り無償修理致します。

なお、本製品の保証期間は販売店よりお買い上げの日より換算して 1 年間です。

また、本製品は下記輸入元の正式な手続きを経て輸入されており、それ以外のいかなる者により国内に調達された製品に関してはどのような場合にあっても製品保証の対象外とさせていただきますのであらかじめご了承ください。

This warranty program is valid only in Japan.

修理に関する御相談先

▼ECLER 社との国内独占販売契約に基づく 輸入元

グラフィカ株式会社 サービスセンター

電話 086-239-0010 FAX: 086-239-0020

〒703-8265 岡山市倉田 295-15

メールでのお問い合わせは: postmaster@graphica.ne.jp までお願いします。

※ 修理の際に販売店又は輸入元へ製品を送付される前に必ず御連絡をお願いします。その際、修理受付番号を申し上げますので番号をお手元にお控えいただきます様をお願いします。また、無償修理の場合保証期間内であることが証明された「製品保証書」が必要になります。それ以外の修理はいかなる場合においても有償となりますのでご了承ください。

※ 本製品に関する保証制度は、ECLER 製品正規販売店よりご購入したオリジナルユーザー（最初のユーザー）のみ有効です。保証期間内に譲渡された場合、被譲渡者には保証制度の一切の権利は継承されません。

製品の不具合、故障につきまして、販売店に送品する前にその症状、発生頻度などをできるだけ詳しく記載したメモを同封いただけますと迅速な修理が可能です。また、オールチェック等曖昧な表現による修理内容が特定されていない場合や故障内容が記載されていない修理のご依頼に関しまして、輸入元にて出来る限りの故障箇所断定・修理を行います。それに起因する修理もれに関わる一切の責任は負いかねますのであらかじめご了承ください。

2. イントロダクション

このたびは ECLER 社プロフェッショナル DJ ミキシングコンソール”EVO5”をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。EVO5 はスペイン ECLER 社が長年の技術の蓄積をもって開発した真のプロフェッショナル DJ に向けたコンソールであり、DJ ユースとしての使用はもちろんのこと、レコーディング、各種音楽制作にも十分な力を発揮するオーバークオリティを目指してデザインされました。世界中のトップ DJ たちの要望を真摯に受け入れ、開発から生産までを一貫して自社(バルセロナに拠点を持つ直営工場)で行い、また 1 つ 1 つのパーツにいたるまですべてにおいて吟味を尽くした、「道の追及」という言葉がぴったりと当てはまる素晴らしい製品です。

The EVO5 is a perfect tool for today's DJs and producers thanks to its unique combination of a 12 channel firewire soundcard, the highest digital audio quality with 24 bits and 96 KHz, MIDI Control, full colour display and a completely programmable effects processor.

This genuine mixer uses the best available components and 24 bit A/D and D/A converters in order to obtain the best sound quality. Due to the over 40 years of experience in designing professional audio equipment, the circuits are very efficient and the digital sound has the same warmth as any analogue device. All circuits are manufactured and tested in our factory in Barcelona.

The internal soundcard has 12 input and 12 output channels. All of them have low latency thanks to the usage of firewire technology. A single cable allows transmission and reception of all these audio channels and all the MIDI Control data. This compact card turns the EVO5 into an ideal sound desk for music production, live acts and the most advanced DJ sessions, which combine the traditional vinyl, CD players and avant-garde software as LIVE or TRAKTOR.

The effects unit has a crystal clear sound due to the standard quality of 24 bits and 96 KHz. All effects can be completely programmed. There are 9 basic effects that can be edited according to the user's needs and it is also possible to create new effects by chaining two different basic effects and programming them as wanted. Up to 64 different effects can be created and saved. The external software “EVO5 Librarian” also lets you import and export your effects configurations using a computer. This lets you exchange your sounds with other artists.

The MIDI control is nearly unlimited thanks to the 69 controllers and the 64 available parameter patterns. The EVO5 wears a MIDI control section with 6 push buttons and 4 encoders which can be rotated and pressed. The full colour display allows creating and viewing labels that allow you to know which function is executed by which controller in each moment. The channel controllers can be individually set up to send MIDI data or to work as audio controllers. The external software “EVO5 Librarian” also lets you import and export MIDI configurations.

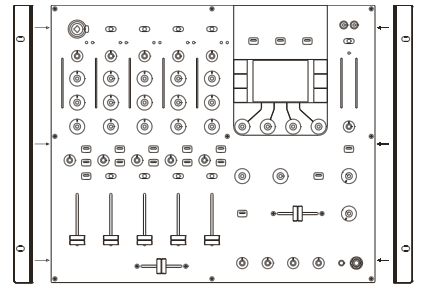
The mixer's display is unique in its class and converts the EVO5 into the world's first mixer that offers such a feature. This high quality display with 320 x 240 pixels raises the flexibility, since it is possible to edit all of the mixer's parameters in real-time. Using the display you can adjust all of the mixer's functions as, for example, the tone controls, the input and output sensitivities, the fader and crossfader curves, the MIDI controls, the BPM counter ... even the output limiter that has been installed to tranquilize the sound technicians and engineers!

Finally, this unique mixer has been designed by GIUGIARO DESIGN, one of the world's most prestigious companies in product design and prize awarded as the best car designer of the 20th century. With this design, GIUGIARO has been looking for a perfect harmony between the well-known and plain ECLER design and the innovation of such a revolutionary product as the EVO5.

3.本体の設置と準備

まず、ユーザー様において考慮しなければならないのは「これをどこに設置し」「周辺機器とのケーブルをいかに取り回すか」ということです。通常、こういった DJ ミキサーと呼ばれるものはテーブルトップを前提にデザインされており、両脇にターンテーブル(レコードプレーヤー)もしくは CD といった再生機器を置き、EVO5 本体はその中央部に設置します。EVO5 の寸法は幅 44cm、奥行き 37cm です。

別売オプションの鉄製「サイドプロファイルキット」を使えば DJ テーブルなどと相互に固定することができ、より快適な操作ができるようになります。詳しくは巻末の資料(Fig.1)をご覧ください。



マイクロフォン、およびターンテーブル(PHONO)は非常に高いゲイン(利得—音声信号の増幅)を必要とし、周辺で電氣的ノイズが発生するとそのノイズがケーブルを介して混入し、ノイズごと増幅されてしまいます。調光装置やエンジン、大型トランスなど、本体からノイズの発生する機材およびケーブル(こういった機械は本体そのものからノイズが出ているものです)から離れた状態でお使いください。また、本体自体は強い電気シールドを施しています。お使いの際は、本体の底部メタリックカバーを開けたままの状態でご使用ください。

EVO5 の電源は通称スイッチングシステムといわれる電源を使用しているため、特に大きな発熱はありません。本体をクーリングする必要はありませんが、使用環境において極端に高温多湿の場所、もしくは埃の多い場所での使用はお控えください。

この電源システムは ECLER がワールドワイドの使用を前提にして設計したユニバーサルパワーサプライを使用しており、90~264VAC、電源周波数 47~63Hz の間であれば正常に動作します。外国での使用は、その国にあった AC コンセントのアタッチメントを購入するだけで使用することができ、ステップアップトランス等は必要ありません。

今一度、電源ケーブルが信号ケーブルと同じ位置でにあってクロスしたりしていないかをご確認ください。このような状態ですと電源ノイズが発生しやすくなります。

なお、本体には過電流用のヒューズ(T1A)が搭載されています。本体の電源コード差込口のすぐ上にヒューズホルダーがあり、もしもこのヒューズが切れた場合も簡単に交換が可能です。ただし、交換してもすぐヒューズが切れるなどの現象が起こった場合は内部の異常が考えられます。前項のカスタマーサービスもしくはお求めの販売店にご相談頂きますようお願いいたします。



＜注意＞規定容量外のヒューズを挿入することは絶対におやめください。また、交換したヒューズがすぐに切れるなどの症状がある場合は別の不良が考えられます。お近くの販売店もしくは輸入元カスタマーサービスもしくはお求めの販売店までご相談ください。

○オーディオ・インプット・コネクション

MIC 1	Microphone 1
PHONO 1	Turntable 1
LINE 1	CD Deck 1
PHONO 2	Turntable 2
LINE 2	CD Deck 2
PHONO 3	Turntable 3
LINE 3	CD Deck 3
PHONO 4	Turntable 4
LINE 4	CD Deck 4

○Phono(フォノ)入力

Phono 入力(42)に接続されるターンテーブル(レコードプレーヤー)は、「ムービングマグネット方式」(通称 MM 方式)によるものであり、その出力が-55dBv から -25dBV(1.77~56mV)の間にあるものをご使用ください。通常市販されている DJ 用ターンテーブルのほとんどがこの規格に適合します。EVO5 は PHONO 入力に対して十分なヘッドルームを持っているため、通常の入力感度は-40dBV(10mV)となっています。このことにより比較的出力

の高いカートリッジを使用しても機材にダメージを与えることなく使用することができます。また、ターンテーブルから出ているアース線は必ず EVO5 本体のアース端子に接続してください

○ライン入力

接続の前にぜひ知っていただきたいこと、それは通常 CD から出力される基準音声レベルはシーケンサーやサンプラーなどの電子楽器等の出力より高いことです。EVO5 ではこれらの出力のレベルを一定に保てるよう、それぞれに専用の入力端子を設けました。H-LINE(43)(基準入力 0dBV/1V)は主に CD や DAT、MP3、DVD プレーヤー等の出力を接続します。信号出力レベルに関してご不明な点がある場合、その機器の説明書に書かれている製品仕様をご確認ください。

○マイクロフォン入力

マイクロフォン入力(1,40)は、基準入力レベルが-40dBV (3.16mV)であり、XLR3P キヤノン端子を装備しています。リアパネルにある MIC ATT スイッチ(48)はマイクロフォン入力感度を 20Db 減衰させるスイッチです。このことにより、マイクロフォンの入力感度は-50dB~-30dB(3.16~31.6mV)です。端子はバランス接続になっているので、下記のような接続が必要になります。

ホット／正相信号	>	Pin 2 Tip
コールド／反転移位相信号	>	Pin 3 Ring
グラウンド	>	Pin 1 Sleeve

EVO5 に接続されるマイクロフォンはインピーダンスが常に (200 to 600Ω)の、いわゆる「ローインピーダンス」型のものでご使用ください。また、アンバランス接続を行う場合はピン1とピン3はコネクタ部分でショートさせておく必要があります。

EVO5 はコンデンサーマイクなど、外部電源を必要とするマイクのために 18V ファンタム電源出力が装備されています。通常、工場出荷状態ではこのファンタム電源が ON の状態になっていますが、内部ジャンパーの設定によってこの機能を OFF にすることが可能です。(詳しくは巻末のダイアグラムをご覧ください)

○オーディオアウト プット 接続

OUT1	メインパワーアンプ、PA 送りなどに対する出力
OUT2	ブース送りや別ルームに対するサブ出力
REC frontal	レコーディング用出力 1
REC posterior	レコーディング用出力 2
Headphones	ヘッドフォン用出力

○マスター出力1【OUT1】

この出力端子(46-48)は XLR バランスとなっており、主に業務用パワーアンプや PA ラインへの送りに対する出力として用いられます。この出力レベルの工場出荷時における基準出力レベルは 0dBV (1V)ですが、内部基盤の簡単なジャンパー変更で+3 または+6dBV (2V)にすることが可能です。OUT 1 出力は OUT 1 (24)ボリュームノブで調節することができます。

○マスター出力2【OUT2】

この出力端子(49)の標準的な使い方として DJ ブースへの送りやステレオへの出力を行うといった場合が考えられます。端子である”stereo OUT 2” (54)は RCA ジャック端子を使用したアンバランス接続です。出力レベルの工場出荷時における基準出力レベルは 0dBV (1V)ですが、内部基盤の簡単なジャンパー変更で+3 または+6dBV (2V)にすることが可能です。OUT 2 出力は OUT 2 (25)ボリュームノブで調節することができます。

なお、OUT 1 および OUT 2 には左右バランスコントロール(27) および L+R モノラル/ステレオ切り替えスイッチ(26)が装備されています。それぞれのコントロールは OUT1/OUT2 のどちらにも同時に作用します。

○レコーディング出力(Recording Output)

RCA ピンジャックを使った録音用の出力で、本体のリアパネル(44)にあります。基準出力レベルは 0dBV(1V)となっており、変更はできません。

○ヘッドフォン出力(Headphones)：

より豊かでパフォーマンス度の高い出力を得るために、ヘッドフォンはハイインピーダンスタイプ (200-600Ω)のものをお使いいただくことを強くお勧めします。ヘッドフォンの入力端子を MONITOR 端子 (23)に接続し、ヘッド

フォン出力ノブで音量を調節します。ヘッドフォンの 3P フォーン端子の構成は、スリーブ=GND、リング=右チャンネル、ティップ=左チャンネルとなっています。

デジタル接続

○Firewire port

背面パネルにはハブとして 6 ピン (IEEE1394) の Firewire 接続 (50) が 2 つあります。この Firewire 端子はミキサーと PC を接続し、最大で 12 のオーディオ入力チャンネル、12 のアウトプットチャンネル、MIDI コントロールデータを送信できます。

○MIDI IN

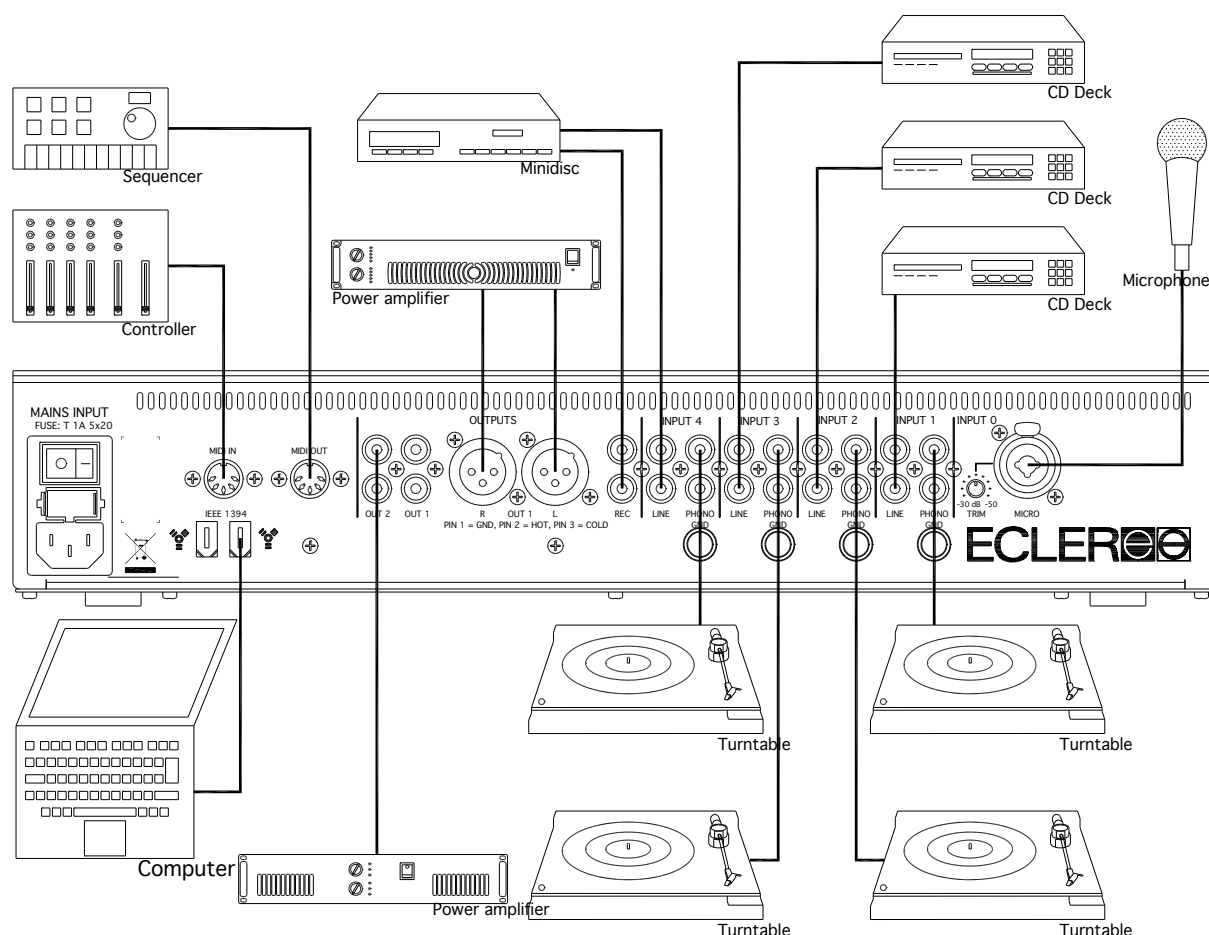
MIDI (Musical Instruments Digital Interface) は電子音楽機器と PC 間の標準コミュニケーションプロトコルです。接続、MIDI デバイスのコントロールの手順は第 8 章で説明しています。

MIDI IN コネクタ (52) は EVO5 と他の MIDI デバイスが接続可能な DIN 5 (180°) です。MIDI デバイスを MIDI IN に接続する場合は、全ての MIDI データ (MIDI クロックを除く) は Firewire 端子から PC へ転送されます。この機能は EVO5 を DIN 5 から Firewire への MIDI データ変換器として移動させます。また、他の MIDI デバイス (PC 以外) から EVO5 へ MIDI クロック信号を送信することも可能になります。

○MIDI OUT

全ての MIDI データは PC から Firewire を通じて送られ、EVO5 にはアドレスされずにこのアウトプットによって転送されます。

この機能は EVO5 を DIN 5 から Firewire への MIDI データ変換器として移動させます。また、ソフトウェアを通じて EVO5 から MIDI クロック信号を送信することも可能になります。



4. クイックスタート

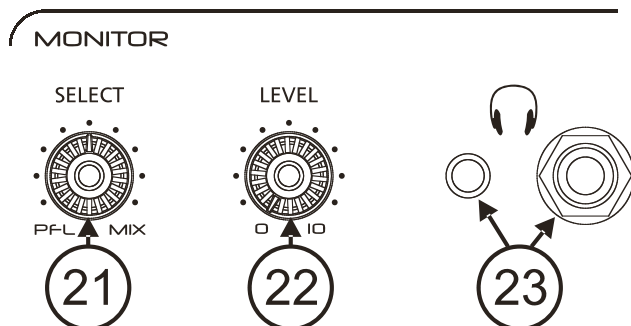
詳しくは ECLER サイト <http://www.eclerdjdivision.com/> でもご覧いただけます。

まず、巻末の設置図および結線図を参考にしながら、EVO5 と各周辺機器との接続を行います。

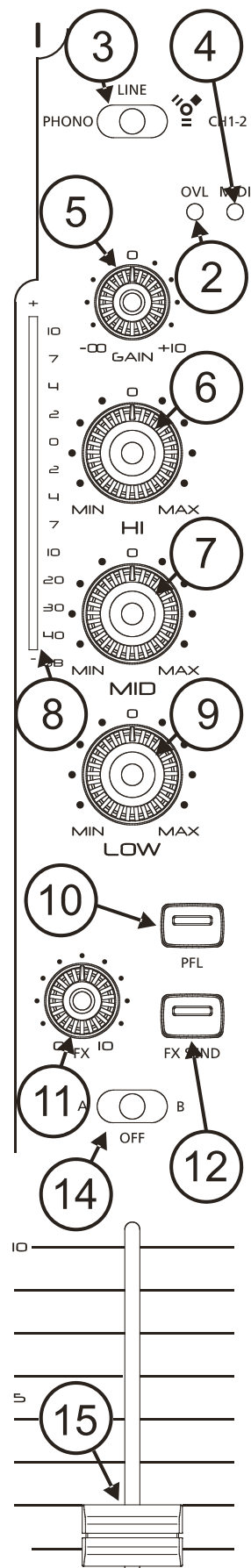
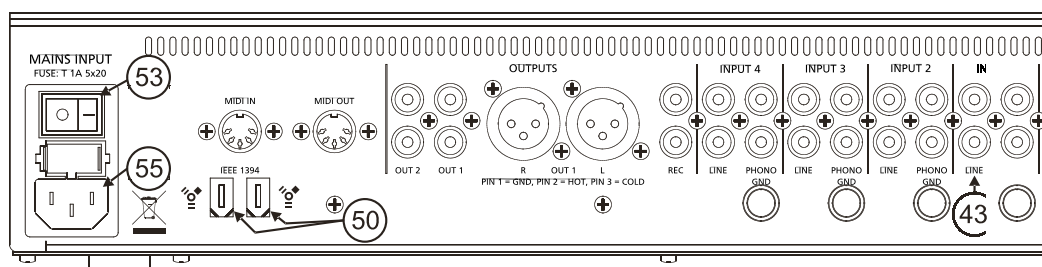
この章では「クイックスタート」と題して H-LINE 入力に CD を接続し、(チャンネル1) 同時にマイクロフォンも接続、出力にヘッドフォンモニター出力のみを使った簡単な使用方法に関して記述します。

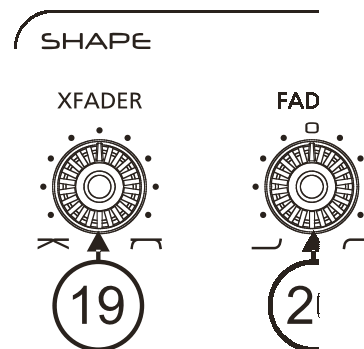
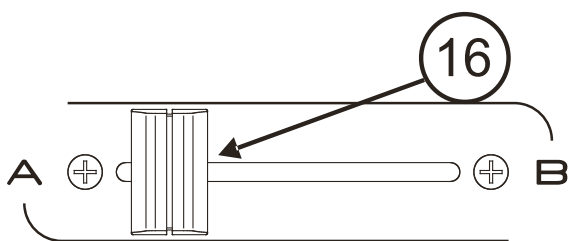
はじめに、CD プレーヤーとヘッドフォンををご用意ください。MIDI カードとインターナル・サウンドカードを使用する場合は Firewire 接続したパソコンも必要です。

1. チャンネルコントロールをセットします。GAIN, HI, MID, LOW の各ロータリーノブをチャンネル 1(5,6,7,9) から中央の”SNAP-IN”のポジションにします。その後、チャンネルフェーダーを下げ、A/OFF/B スイッチ(14)がポジション Aにあることを確認します。
2. フロントパネルの(23) にヘッドフォンを接続します。モニターレベル MONITOR LEVEL (22) の音量を最小にし、モニターセレクト MONITOR SELECT(21) を PFL の位置に合わせておきます。

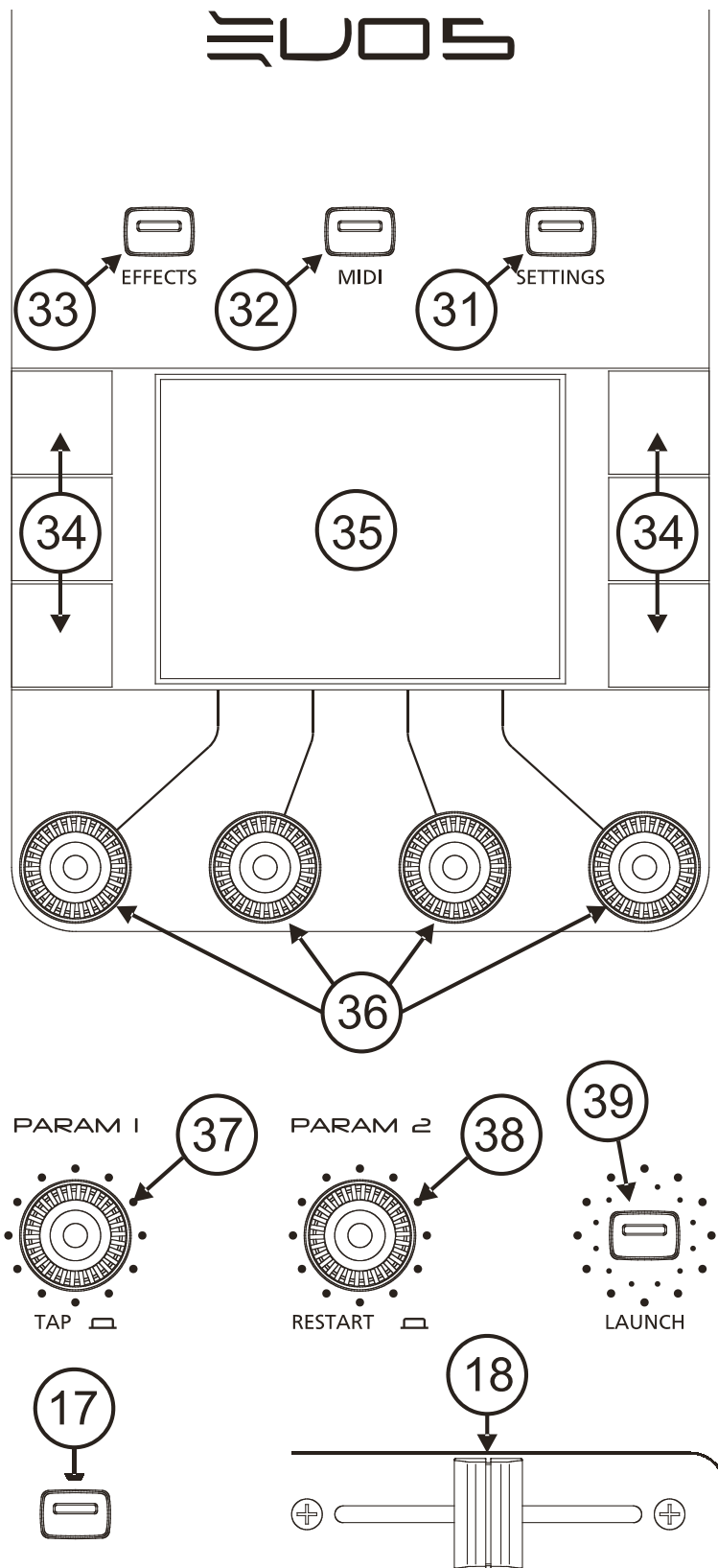


3. チャンネル1 の LINE 入力端子(43)に接続されている CDプレーヤーの電源を入れます。
4. EVO5 本体のリアパネルに位置する(55) に電源ケーブルをつなぎ、メイン電源(53) のスイッチを投入します。





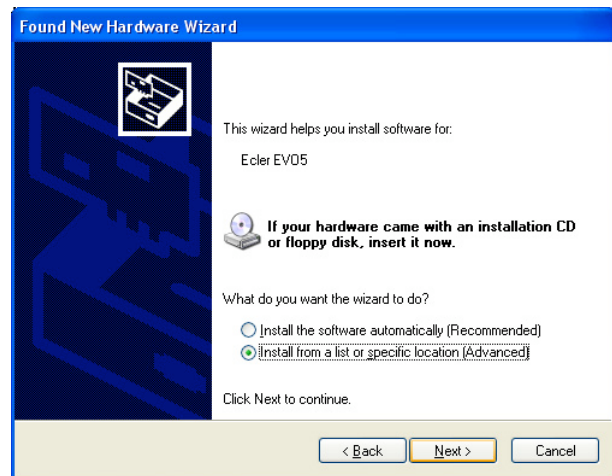
5. フロントパネルのインプット・ソース・セクター(3)が LINE の位置にあり、VU メーター(8)が点灯していることを確認します。点灯していない場合は、CD プレーヤーが正しく接続されているか、TONE、GAIN ノブが中央の位置になっているかを確認してください。
6. 音源をヘッドフォンで聴きながら GAIN つまみを回し、VU メーターの指示値がおおよそ OdBV を指すように調整します。チャンネルが高くなりすぎるとオーバーロードになり、LED OVL(2)が点灯しますので、GAIN コントローラーで下げてください。
7. チャンネルフェーダー(15)を上げ、クロスフェーダー(16)を「A」側にします。
8. PFL ボタン(10)を押してヘッドフォンで音を聞きながら MONITOR LEVEL ノブ(22)を調節し、快適にモニタリングできる音量にします。MONITOR SSELECT(21)を右に回し、PFL シグナルと MIX シグナルをクロスフェードします。
9. チャンネルのイコライジングセクション(6,7,9)をチェックします。このイコライザーは DJ のワーキングを極限に考慮して設計されたもので、左いっぱいにつまみをまわすとその帯域の音が消えてしまう、アイソレーター機能を有しています。このアイソレーターは低音域の音声をカットすることができます。
10. 1~4 のチャンネルは、A/OFF/B を選択することでクロスフェーダー(16)に割り振られます。クロスフェーダーは、その両端に割り振られた信号を調節できるようになります。セクターが A または B のとき、クロスフェーダーの片方にチャンネルを振っています。
11. XFADER SHAPE ノブ(19)はクロスフェーダーのカーブ特性を精密に調節することが可能です。左いっぱいに戻すと、クロスフェーダーが中央の位置にあるとき、シグナルが消えて 2 つの音楽を徐々にミックスすることができます。カーブの傾斜はノブを右に回すと大きくなり、シグナルはクロスフェーダーではできない速さになります。スクラッチの際に非常に便利です。
12. エフェクト選択には、EFFECTS ボタン(33)をショートカットボタン(34)のいずれかと同時に押します。選択したエフェクトがディスプレイに表示されますので、さらにエフェクトを選択したい場合は EFFECTS ボタンを押しながらエンコーダを押します。LOAD と表示され、最大 64 のエフェクトやオリジナルのコンビネーションが出てきますので、希望のものを選んでください。
13. エフェクト送信ポテンシオメーター(11)を右いっぱいに戻します。このノブでは、エフェクトプロセッサに送信したいシグナルレベルを設定できます。FX SEND ボタン(12)を押すと送信できます。送信は各チャンネルごとに可能なので、サウンド編集に役立ちます。
次に、LAUNCH ボタン(39)を押して、元のシグナル(DRY)と新しいシグナル(WET)が融合するように DRY/WET(18)クロスフェーダーを動かします。エフェクトシグナルを見たい場合は、FX PFL(17)を押してください。
14. エフェクトサウンドの調整には、PARAM1(37)と PARAM2(38)ノブを使います。調整中のパラメーターは画面に表示されます。別のパラメーターを調整したい場合はスクリーン上の希望のボタン FX1/2 のように現在スクリーンに表示されているいずれかを押してください。エフェクトの調整には、4 つのエンコーダ(36)を使用します。
MIDI コントロールやインターナル・サウンドカードを使用したい場合は、Firewire 接続のパソコンと MIDI 機能付 DJ ソフトウェアが必要です。EVO5 は、LIVE6(Ableton)と TRAKTOR3(Native Instruments)といったアプリケーションをコントロールするプリセットを備えています。これらのアプリケーションは各メーカーのウェブサイトからダウンロードが可能です。
15. ミキサーをパソコンに接続するには、付属の Firewire ケーブル(IEEE1394)で、パソコンの Firewire ポートとミキサー側のポート(50のいずれか)を接続します。ケーブルを通して、オーディオと MIDI データがミキサーとパソコンに送られます。MIDI OUT は必ずしも使う必要はありません。
16. インストール CD と Firewire ケーブルによってドライバーをインストールすることができます。一旦ミキサーとパソコンを接続すると、下図の手順でインストールが始まります。EVO5 は Windows XP SP2 と Macintosh OSX v 10.X. に対応しています。
17. DJ ソフトウェアにサウンドカードを設定する方法は、アプリケーションによって異なります。ソフトウェアを開き、オーディオデバイス・マネージメントセクションに入ってください。ソフトウェアがサウンドカードを「Ecler EVO ASIO Driver」と認識し、12 のインプットがソフトウェアのチャンネルに割り振られます。
18. デジタルサウンドファイルを再生するには、サウンドカードを設定した後、ソフトウェアでデジタルミュージックを再生します。



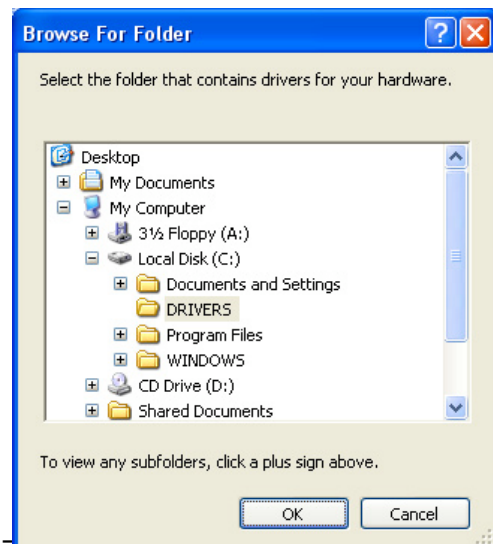
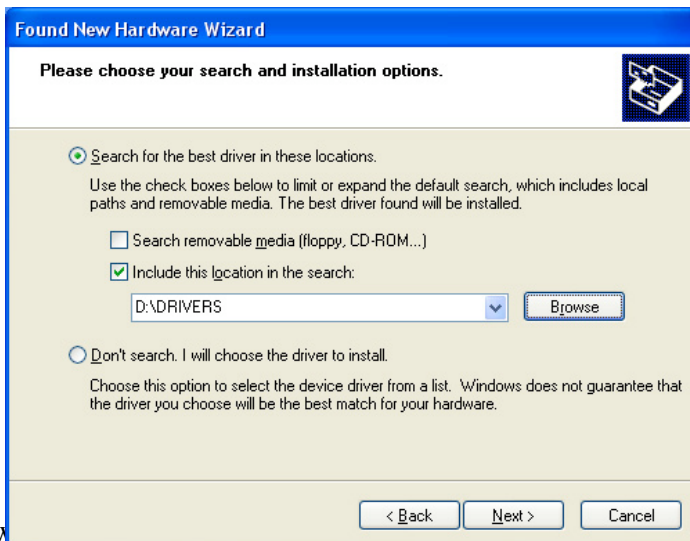
ミキサーとパソコンを接続すると、“New hardware found. Ecler EVO5”のポップが起動します。

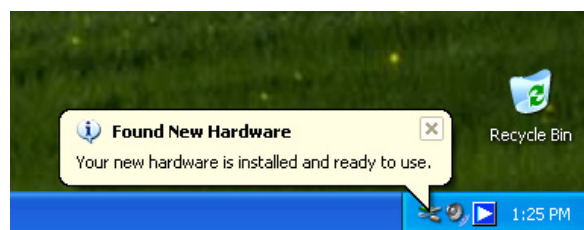
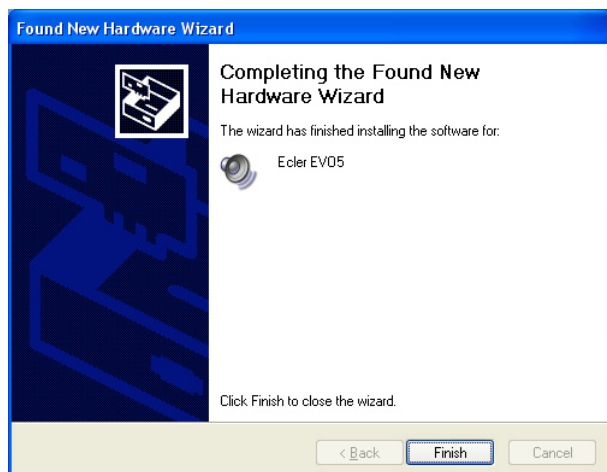
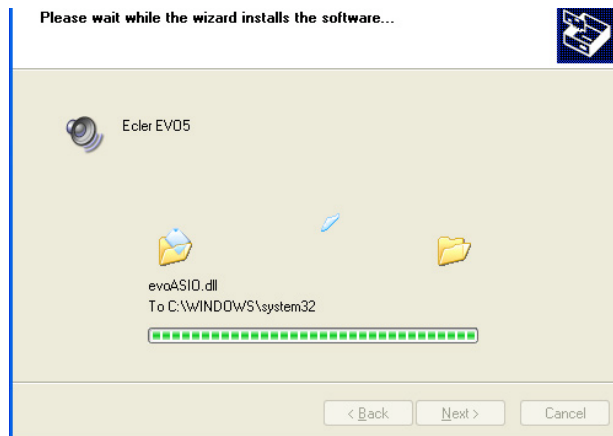
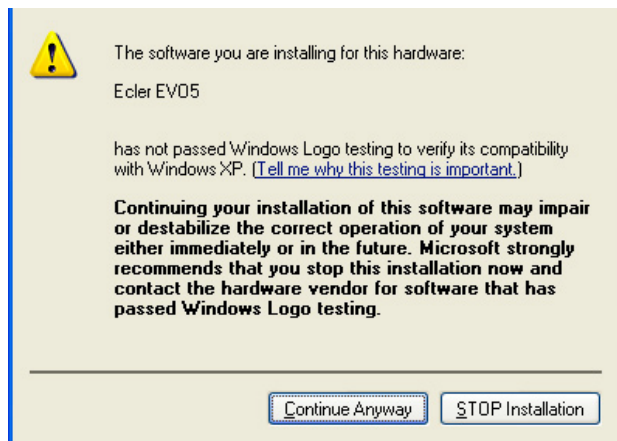


新しいハードウェアがウィザードを検索します。オプションの中から“No, not this time”を選択し、“Next”をクリックします。その後、“Install from a list or specific location(advanced)”を選択します。



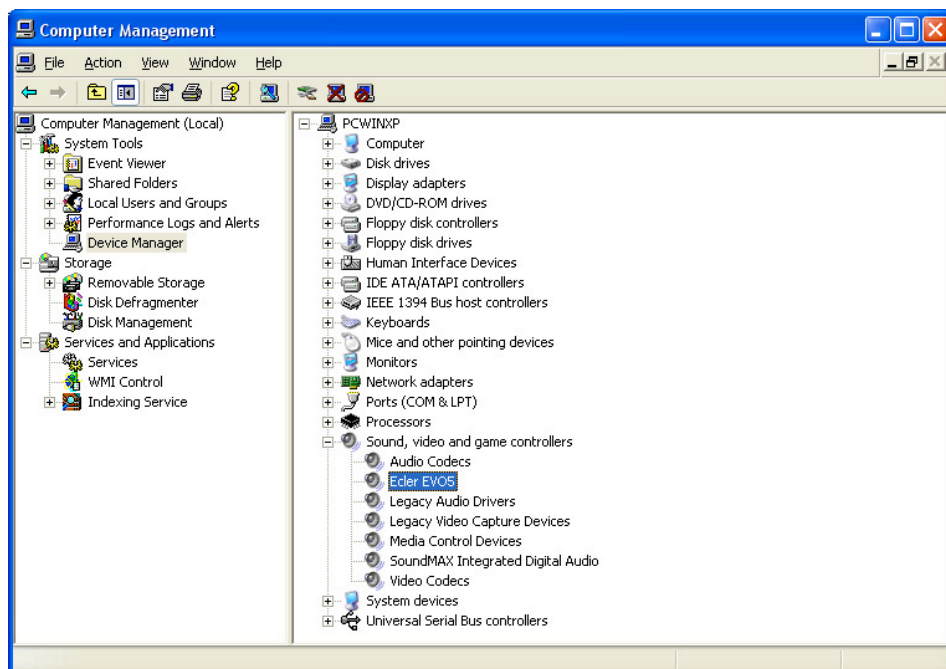
“Browse” をクリックします。





ポップアップが出て、ダウンロードの完了を知らせてくれます。

ただしインストールできたか確認するには、“Device Manager”を開き、“Sound, Video and game controllers”の枝に“Ecler EVO5”があるかどうか見て確認できます。



OMAC OSX v 10.X

ソフトウェアは自動的に必要なドライバーをインストールします。ミキサーは"Sound"の枝の"System settings"の中でインプット/アウトプットデバイスとして表示されます。

デフォルト・サウンドカードとして使いたい場合は、"Audio and MIDI settings"を開き、必要なパラメーターを設定してください。

17. DJソフトウェアにサウンドカードを設定する方法は、各アプリケーションによって異なります。ソフトウェアを開き、オーディオデバイス・マネージメントセクションに入ってください。ソフトウェアがサウンドカードを"Ecler EVO ASIO Driver"と認識し、12のインプットがソフトウェアのチャンネルに割り振られます。

18. デジタルサウンドファイルを再生するには、サウンドカーを設定した後、ソフトウェアでデジタルミュージックを再生します。インプットセレクター(3)を FireWire CH1-2 の位置にし、VUメーターが点灯したら、アナログと同じように GAIN、TONEノブでインプットシグナルを調節できます。

19. EVO5はLIVE6やTRAKTOR3といったアプリケーションに設定された64パターンのMIDIコントロールを搭載しています。EFFECTS(33)とエンコーダを押し、LOADと表示させます。64の選択可能なパターンリストが表示されるので、"EMPTY"を選択して使ってみましょう。

20. MIDIコントローラーにコマンドを割り振るには、MIDI設定はDJ機器によって異なりますので、ソフトウェアでできるプログラム方法をいろいろ試してみられることをお勧めします。

コントロールしたい機能を選択し、MIDIデバイスの指示に従って実行したいコントローラーへ移動します。

デバイスがミキサーから送信されるMIDIノートを認識したら、リモートコントロール可能になります。ディスプレイ周辺のコントローラーは、MIDI(32)で起動するとMIDIデータを送信します。

The channel and output controllers instead, have to be configured to send MIDI data (a blue LED indicates that the input channels are working in MIDI mode).

5.1. スタート アップ

本体背面にある POWER(53)スイッチを ON にすると EVO5 本体の電源が入り、EFFECTS/MIDI/SETTING ボタンの緑ランプが点灯し、ディスプレイに Welcome と表示されます。

＜注意＞

EVO5 の電源投入時に発生するノイズは他の DJ ミキサーに比べ非常に小さく、ほとんどノイズのないスムーズなスターティングが可能です。しかし、他の音響機器に対するダメージを防ぐため、ぜひ以下の「電源投入手順」をお守りください。

【電源投入の手順】

1. ターンテーブル、CD などの音源装置
2. ミキサー（EVO5 本体を含む）、および EQ などのアウトボード
3. パワーアンプなどの出力装置とレコーディング機器

【電源 OFF の手順】

上記 1 ～ 3 の逆の手順を行ってください。この手順を守らないと、スピーカーやアンプに損傷を与える危険性があります。

5.2. 各種コントロール

5.2.1 インプットセレクター【Input selector】

各入力チャンネルにはセレクタースイッチ(3)が装備されており、PHONO 入力や CD (LINE) 入力、Firewire サウンドカードによるステレオチャンネル入力などを選択することができます。

5.2.2. チャンネルゲイン【GAIN】

EVO5 のすべてのチャンネルには、無段階で調整が可能なゲイン/センシビリティコントロールノブ(5)が装備されています。このゲインコントロールは主にチャンネル間の入力レベルの違いをおおよその幅で均一にするもので、このゲインコントロールをしっかりと行っていれば、フェーダーを上げたときにチャンネルにかかわらず常に同じレベルでの出力が得られます。

ゲインのコントロールの仕方は VU メーター(8)、OVL(2)、ヘッドフォンでの聴感をリファレンスとして調節します。スムーズなプレイを実現するための第一歩としてここでのセッティングをしっかりと行ってください。おおよそのレベルとして、①VU メーターで 0dB 前後を指すこと、②クリッピングインジケータが点灯しないレベルが最も望ましいといわれています。

5.2.3. イコライゼーション

EVO5 にはチャンネルごとに 3 バンドの EQ が装備されており、高音(9)および低音(6)は+10/-30dB のブースト/カットが可能です中域(7)は+10/-25dB のブースト/カットが可能です。各帯域のイコライザーを左いっぱいに戻すとその帯域の音声成分は消失します。(アイソレーション機能)

トーンコントロール(スタイル、周波数帯、GAIN)はソフトウェアで編集可能です(10 章メニュー設定参照)。ここで選択した設定はチャンネル 1-4 とは共通しますが、マイクチャンネルとは異なる可能性があります。

注意: ブーストをする際には、低音に十分注意してください。低音をブースとしたときにかかるスピーカーの負荷がキャパシティをオーバーし、スピーカーユニットやパワーアンプを破損する原因となります。

5.2.4. モニタリングシステム

EVO5 には直感的な使いやすさを追求した PFL/PGM モニタリングシステムが搭載されており、VU メーターやヘッドフォンを通じて各チャンネルのモニタリングが可能です。それぞれのチャンネルは PFL(10)と FX PFL(17)ボタンを押すことにより、フェーダーの位置に関わらずそのチャンネルに入力された信号を独立して検聴することができます。

さらに VU メーター (29) に PFL レベル(L+R)を表示することが可能で、すぐ上のセレクターの位置によって OUT1、MIX、OUT2 のレベルを表示しています。

また、PFL/MIX バランスボリューム(21)のつまみを適宜調節することにより、PFL と実際のメイン出力の両方を一度にモニターすることが可能です。

LEVEL(22)ノブを回すと、ヘッドフォン出力をコントロールすることができます。

5.2.5. 外部エフェクト 機器との接続とコントロール【 FX SEND】

青ランプ点灯している FX SEND (12)ボタンを押すと、各チャンネルのシグナルがインターナル・エフェクトプロセッサに送信されます。シグナルレベルは (11) で 0-100%の調節ができます。

インターナル・エフェクトプロセッサについては7章を参照してください。

5.2.6. チャンネルフェーダー

EVO5 には 60mm 専用フェーダー(15)が搭載されており、VCA 回路*との併用により、高い精度でのフェード特性とおよそ 400 万回のスクラッチに耐える高耐久性を兼ね備えています。

*VCA Voltage Controlled Amplifier (電圧制御増幅回路) の略。フェーダーそのものに音楽信号(可変電流)を通さず電圧のみでコントロールするためフェーダーに対する負荷を軽減することができ、電気パーツの耐久性向上に貢献します。通常 VCA は音を劣化させるという説が一般的ですが、ECLER の VCA 回路は音響特性として放送局グレードに対応するものであり、音質を損なうことはありません。

フェーダーのカーブ特性は SHAPE FADER つまみ(20)で適宜調節することができます。

中央にあわせると、ライナーカーブを描きます。右いっぱいに戻すとクロスフェーダーが動かせないくらいフルレベルになり、左いっぱいに戻すとフェーダーが反対側に届きそうなほどフルレベルになります。

5.2.7. クロスフェーダー

MICRO (チャンネル 0) 以外の全チャンネルは A/OFF/B スイッチ (14) を使ってクロスフェーダーに割り振られます。A、B の位置では、シグナルをクロスフェーダーのどちらか一方に割り振り、OFF の位置ではクロスフェーダーが効かなくなります。

SHAPE FADER (19) はクロスフェーダーのカーブを調節します。スクラッチに不可欠なファストカットなど、2つの音楽を簡単に組み合わせることが可能です。ソフトウェア使用時には、カットインタイム (mm 単位) を調整することも可能です。

EVO5 は通常の ECLER クロスフェーダーに対して飛躍的な電気的性能と耐久性を有する "ETERNAL" クロスフェーダーへの交換によるアップグレードが可能です。

ETERNAL(エターナル)クロスフェーダーは、2004 年にリリースされたバトルコンソール HAK360 に搭載されて以来、ユーザーから非常に高い支持を受けている次世代のフェーダーです。通常のカーボンフェーダーに対し、リニアモーターカーなどで応用されている「磁界束」の原理を使用したマグネティックフェーダーであり、きめ細かなフェーダー位置情報の検出と物理非接触による高度な耐久性が特徴です。

フェーダーユニット 内部に配された 0.5g の薄いアルミニウムスクリーンが 2 つのコイル間を移動するときに起きる微弱な電磁誘導を検出し、ボルテージに変換します。この技術と従来の VCA 技術を重ねあわせ、正確なフェーダー位置を絶えず検出し、また激しいフェーダーの動きにも得られた数値 (=抵抗値) を正確に VCA 回路に送出します。このような非接触型のフェーダーには他に光を用いて検出する「オプティカル方式」が存在しますが、マグネティック方式のフェーダーは開発コストが非常に高く、製品化は一般的に容易とはいえません。それを敢えて製品化にこぎつけたのが ECLER の技術であり、このフェーダーには 5 年間もの長期間保証を実現しています。

ETERNAL フェーダーを使用することのメリットとしてもうひとつあげられるのが「チューニング」機能です。

EVO5 の XF セクション (本体前面下部) にはこのフェーダーを使うことでの更なる付加機能を用意しています。

ETERNAL クロスフェーダーへの交換は、次のトピックスをお読みください。

5.2.8. ECLER 純正クロスフェーダーおよび ETERNAL フェーダーへの交換の手順

それぞれのフェーダーには寿命があり、音声信号が入力されていない状態でフェーダーを動かしてみて雑音が発生する場合やプレイ中に音が途切れるなどの症状が出現したときはそのフェーダーは交換時期にあると判断すべきです。フェーダーは以下の手順で簡単に交換できます。

1. フェーダーノブをはずし、本体底部にある 4 つのねじをドライバーで外します。
2. 本体とフェーダーを固定している 2 つのねじを外し、フェーダーを本体から出します。
3. フェーダーを接続しているマルチピンコネクタを外します。
4. 新しいフェーダーを取り出します。(必ず ECLER 純正交換用パーツをお使いください)
5. マルチピンコネクタを接続します。
6. 本体とフェーダーを先ほど外した 2 つのねじでしっかりと固定し、動かないことを確認します。
7. 本体底部の蓋をし、フェーダーノブを取り付けて完了です。

なお、交換にはいずれの場合も ECLER 純正フェーダーをお使いください。

○インターナル・エフェクトコントロール

6 章を参照してください。

○TALKOVER 機能

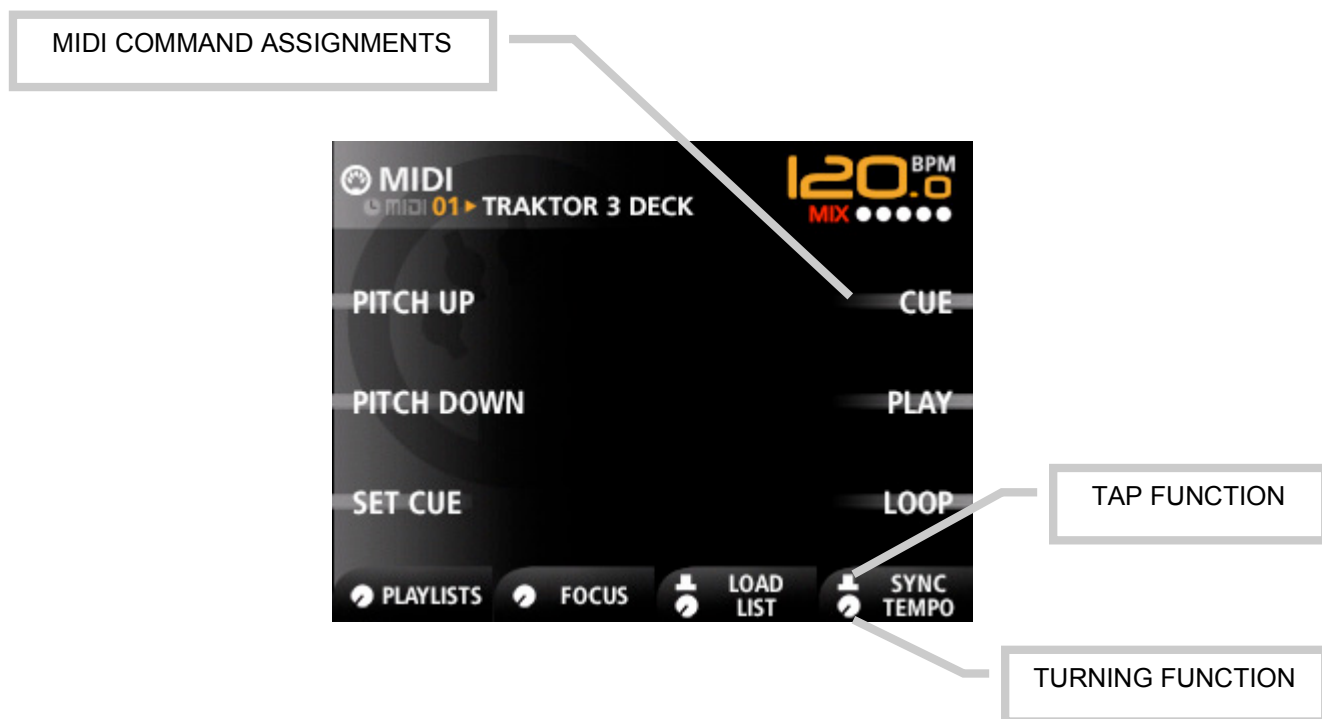
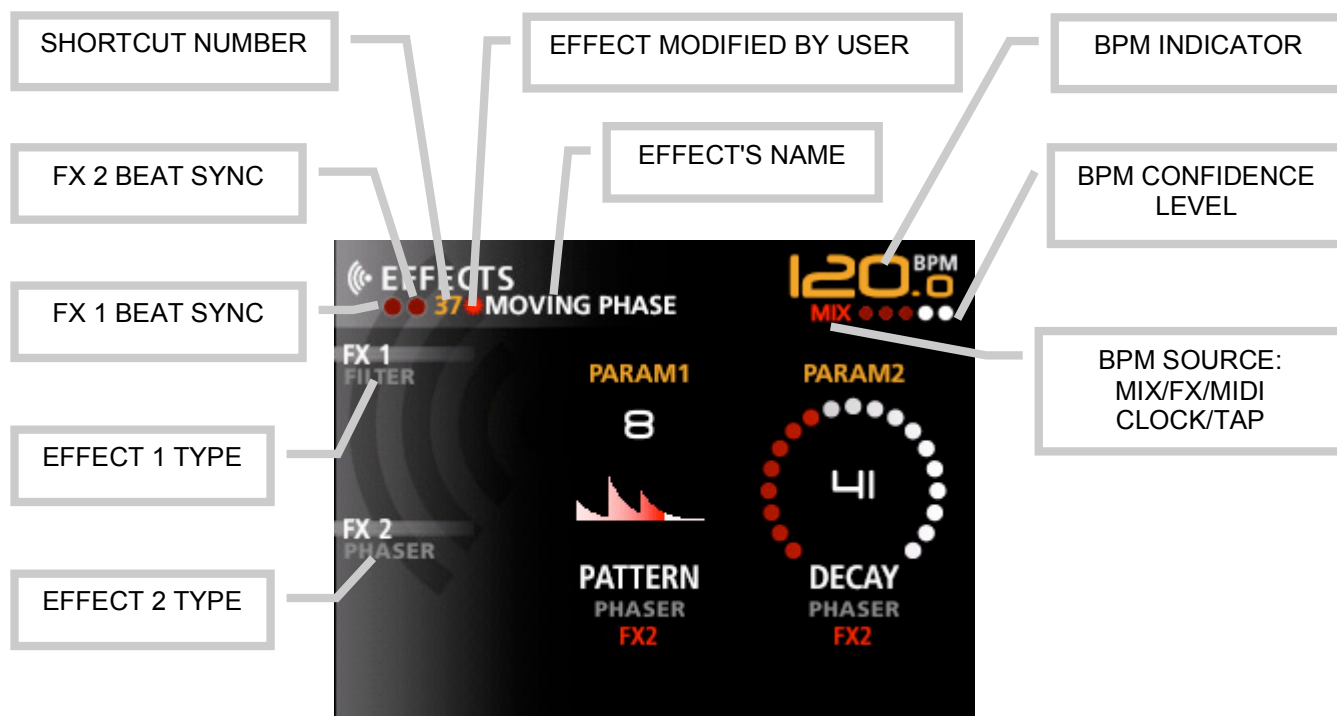
マイクチャンネル 0 には TALKOVER 機能があります。起動すると (13) の赤ランプが点灯し、マイクに作用しているシグナルを消すことができます。シグナルを復活させるには減衰と同じ時間がかかりますが、ソフトウェア上で設定できます。

5.2.9. マスターレベル OUT1/OUT2

EVO5 は、OUT1 および OUT2 の 2 つのメイン出力を有しています。OUT1 ボリューム (24) または OUT2 ボリューム (25) でそれぞれコントロールします。どちらも OUT1/MIX/OUT2(29)に切り替えて VU メーターでモニターできます。L+R コントローラーとバランスツマミ (BAL)を編集することも可能です。

ソフトウェアでコンプレッサーをどちらかのアウトプットに割り振ることができます。(10 章メニュー設定参照)

○スクリーン各部名称





6. エフェクトプロセッサ

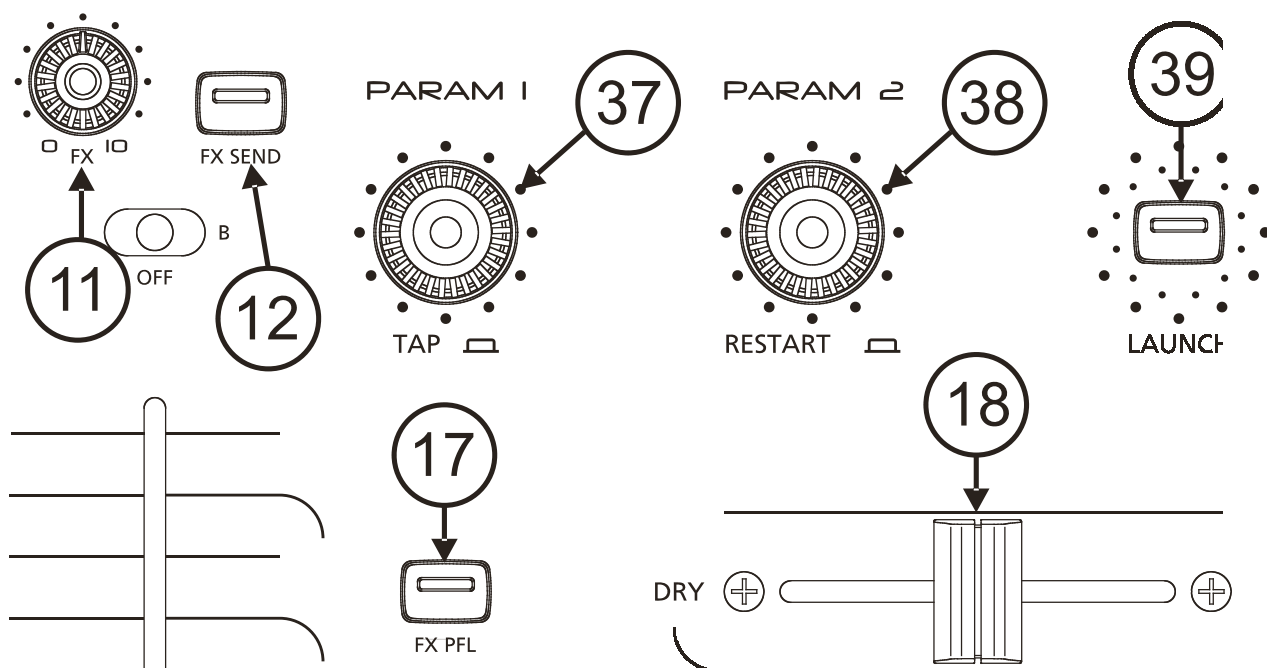
9 つの編集可能なベーシックエフェクトがあり、いずれか 2 つを組み合わせると新しいエフェクトを生み出すことが可能です。最大 64 のエフェクトをミキサーメモリーに保存することができます。

精密なインディケーター付き BPM カウンターはエフェクトにシンクロします。一方で、パターンシンクロ機能はエフェクトをクリエイティブにコントロールします。

チャンネル 0 (MICRO) に関してはノイズゲートとコンプレッサーの 2 つの編集可能なエフェクトがあります。

エフェクト設定は付属のエクスターナルソフトウェア使用のパソコンでインポート、エクスポートされますので、他のアーティストと共有することも可能です。

○エフェクトコントローラー



○FX SEND ボタン (12)

マルチチャンネル・アサインシステムで一度に複数のインプットチャンネルを加工することが可能です。このボタンはシグナルをエフェクトプロセッサに送信します。

LAUNCH ボタンが無効の場合、FX SEND はプリフェーダーに作用し、FX PFL で確認できます。

LAUNCH ボタンが有効な場合は、FX SEND はポストフェーダーに作用します。

○FX ポテンショメーター (11)

このノブではエフェクトプロセッサに送るシグナルレベルを調節できます。この調節は各チャンネルに影響しません。

○PARAM1 エンコーダ (37)

このエンコーダ選択したエフェクトパラメーターをコントロールします。パラメーターはソフトウェアで選択するのが最も簡単です。

エンコーダを押すと、TAP 機能が ON になり、手動で BPM カウンターにシンクロするリズムシークエンスが加わります。

○PARAM2 エンコーダ (38)

このエンコーダは選択したエフェクトのセカンドパラメーターをコントロールします。

エンコーダを押すと、RESTART 機能が ON になり、BPM パターンからはじめに選択された音楽にシンクロします。

○FX PFL ボタン (17)

このボタンを押すと、エフェクトをモニタリングできます。FX PFL シグナルは DRY/WET クロスフェーダー (18) で動かせます。

LAUNCH ボタンが無効の場合、FX SEND はプリフェーダーに作用し、FX PFL で確認できます。

シグナルが表示され、エフェクト パラメーターを設定したら、LAUNCH ボタンは有効になります。FX SEND はポストフェーダーに作用するようになり、ミックスレベルはチャンネルフェーダーでもコントロールできます。

○DRY/WET クロスフェーダー (18)

このフェーダーでは、実行中のシグナル (WET) と元のインプットシグナル (DRY) を融合させることができます。

クロスフェーダーのカーブはソフトウェア上で調節できます。

○LAUNCH ボタン (39)

このボタンは DRY/WET クロスフェーダーでミックスしたシグナルを送信します。

LAUNCH ボタンが無効の場合、エフェクトシグナルはメインアウトプットに送られず、選択したチャンネル (FX SEND) はプリフェーダーでコントロールされます。これによって、メインアウトプットの影響なく、ヘッドフォンでエフェクト設定をモニタリングすることが可能です。

LAUNCH ボタンが有効になると、DRY/WET クロスフェーダーからのシグナルがメインアウトプットに送られます。選択したチャンネル (FX SEND) はポストフェーダーに作用するようになり、エフェクトのミックスレベルはチャンネルフェーダーからも影響を受けます。

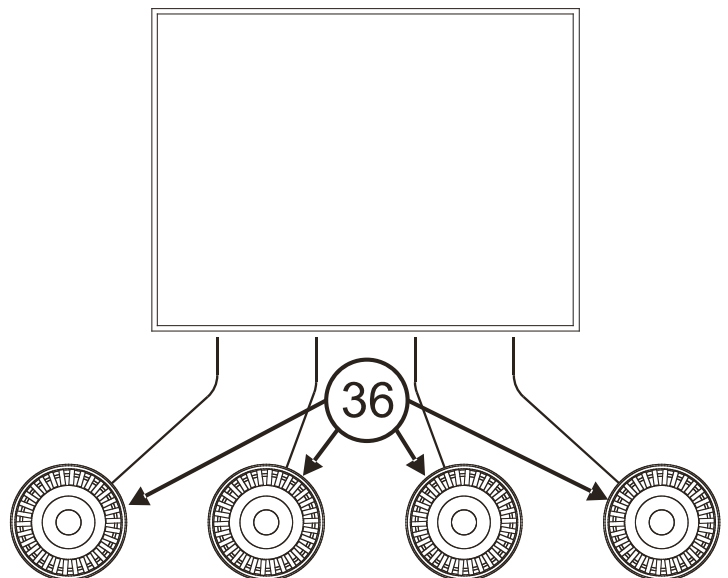
この機能で、チャンネルフェーダーが下げられたときにエフェクトのラストを聞くことが可能になります。また、DELAY を含むエフェクトシグナルはオーディブルディレイを避けることができます。

○スクリーン上のエフェクトコントローラー

エフェクト パラメーターをリアルタイムで編集したい場合、FX1 または FX2 を押してパラメーターを表示させます。

ディスプレイ下にある 4 つのエンコーダ (36) を使って編集します。最大 4 つのパラメーターが 2 列に表示され、各エンコーダは上に位置する 2 つのパラメーターをコントロールします。起動しているパラメーターは点灯し、エンコーダを再度押すと起動を解除できます。

ここでの設定は他のエフェクトには作用しません。



○エフェクト の名称

ベーシックエフェクト・・・9つのベーシックエフェクト は全て編集が可能です。

- ・ DELAY/ECHO
- ・ FILTER
- ・ FLANGER
- ・ PHASER
- ・ TRANSFORMER
- ・ PANORAMIC
- ・ PITCH
- ・ REVERB
- ・ VOCODER

○カスタマイズ可能なエフェクト

EVO5 は FX1 と FX2 の 2 つのベーシックエフェクトを組み合わせることが可能です。

ディスプレイ左側は常に FX1 または FX2 を選択するオプション（ベーシックエフェクト）を表示しています。

1つのエフェクトのみを使いたい場合は、NONEを選択してください。

最大 64 のカスタマイズしたエフェクトをメモリーに保存できます。エフェクト の名称はスクリーン上部に表示されます。

EVO5 は、ECLER PRO チームのメンバーが作成したデモエフェクトを備えています。EVO5 はエフェクトの作成、編集など、ユーザーのミュージックスタイルを確立する

○エフェクト の選択

EFFECTS (33) を長押ししながら、6 つのショートカット (34) のいずれかを押します。選択したエフェクトが表示されます。

別のエフェクトを選択したい場合は、EFFECTS を長押ししながら LOAD を押します。64 のエフェクトが表示されたら、希望のものを選択してください。

ショートカットは、よく使うエフェクトに直接アクセスする際に便利です。例えばエフェクト 43 を登録するには、EFFECTS を長押ししながら LOAD を押し、エフェクト 43 を選択して割り振りたいショートカットキーを押します。



○エフェクトの編集

スクリーン上のエフェクトコントローラーを使って、エフェクトパラメーターをリアルタイムでプログラムすることが可能です。このモードでの設定は、別のエフェクトに切り替えると保存されずに元に戻ります。保存したいエフェクトは名前をつけて保存しておくとう便利です。EFFECTS と SETTING (31) を同時に押し、エフェクト編集メニューに入ります。EFFECTS ボタンがオレンジに点灯します。

○ベーシックエフェクトの変更

FX1/FX2 のベーシックエフェクトを変更したい場合は、TYPE を押します。

○PARAM1/PARAM2 の設定

ASSIGN を押し、パラメーターのリストを表示させます。FX1/FX2 に割り振られている場合はリストに表示されます。P1/P2 がパラメーターの近くに表示されている場合、PARAM1/PARAM2 に割り振られていることになります。パラメーターを選択して PARAM1 (または PARAM2) かを押します。P1 (または P2) が表示されたら OK を押してください。

○編集したエフェクトの保存

エフェクトをプログラムした後、SAVE を押し、64 のいずれ一つを選択して OK を押すと、名前を入力できます。

保存しない場合は EFFECTS を押して戻ってください。ボタンが緑ランプ点灯に戻ります。



○概要

EVO5 のインターナル Firewire サウンドカードは 12 のインプットチャンネル(6 つのステレオチャンネル含む) と 12 のアウトプットチャンネル(6 つのステレオチャンネル含む) を有しています。

ミキサーのインプットチャンネルとサウンドカードのチャンネルは以下のように割り振られています。

Channel 1	—	Firewire channels 1 and 2
Channel 2	—	Firewire channels 3 and 4
Channel 3	—	Firewire channels 5 and 6
Channel 4	—	Firewire channels 7 and 8
MIX	—	Firewire channels 9 and 10
PFL	—	Firewire channels 11 and 12

アウトプットチャンネルの場合は以下ようになります。

Channel 1	—	Firewire channels 1 and 2
Channel 2	—	Firewire channels 3 and 4
Channel 3	—	Firewire channels 5 and 6
Channel 4	—	Firewire channels 7 and 8
MIX	—	Firewire channels 9 and 10
INPUT 0	—	Firewire channels 11 and 12 (same signal)

この Firewire サウンドカードは 24bit ステレオ A/D と D/A コンバーターを搭載しており、96KHz/88.2KHz/48KHz/44.1KHz に対応できます。

EVO5 は 2 つの Firewire コネクタと 6 ピン(IEEE1394) を有しています。この 2 つのコネクタはハブとして作用するため、別のコネクタを持たない Firewire デバイスに接続することが可能です。

○設定

ドライバーが正しくインストールされていることを確認したら、ミキサーをパソコンに接続します。DJ ソフトウェアで"ECLER EVO5 ASIO driver"を開き、各インプット/アウトプットチャンネルをソフトウェアチャンネルに割り振ります。

インターナル・サウンドカードのアウトプットチャンネルはセッションを録音したり、ターンテーブルや CD プレイヤーからパソコンにシグナルを送信したり、ソフトウェアエフェクトを使ったりするのに便利です。

EVO5 の大きな特長、それは MIDI プロトコルで DJ 関連機材をサポートしていることです。MIDI は各種シーケンサやキーボードなど、あらゆる電子楽器に付属する共通の信号体系です。MIDI コマンドは各コントローラーに割り当てられ、ユーザーによる編集、プログラムが可能です。

MIDI (Musical Instruments Digital Interface の略) は、DTM などでは標準の機器通信プロトコルで、先述のとおり電子楽器や DTM が作業領域にある PC には大抵付属しています。それぞれの MIDI 機器は常にマスター (信号を送る側) もしくはスレーブ (信号を受ける側) のどちらかに配されますが EVO5 は常に「マスター」として動作し、たとえばシーケンサやドラムマシン、キーボードなどの各種設定をスレーブ (リモートコントロールされる側) としてコントロールすることが可能です。

EVO5 から送出される MIDI 信号は、「チャンネルメッセージ」および「システムメッセージ」のカテゴリに属する信号です。機器間で互いに信号を送受信するためには、それぞれの機器における使用 MIDI チャンネルが常に同一でなければなりません。

EVO5 と PC 間の MIDI 送受信は、Firewire 接続で行なわれます。

MIDI OUT 端子 (51) の接続は、標準 5 ピン DIN コネクタで構成された MIDI ケーブルを使用します。

Firewire 経由で PC から送られた MIDI データは、この端子から出力されます。この場合、EVO5 は Firewire から MIDI への MIDI データのコンバーターとして機能しています。また、ソフトウェアを介して EVO5 の MIDI クロック信号を送ることも可能です。

5 ピン DIN (180°) MIDI IN コネクタ (52) は MIDI コントローラーと EVO5 とを接続するのに使用します。MIDI デバイスを MIDI IN に接続すると、デバイスからのデータが Firewire 経由で PC に送られます。また、MIDI クロック信号をデバイスから送ることも可能です。

EVO5 は MIDI クロックと呼ばれるシンクロコード (continuous synchronization code) を送信します。これは複数の外部 MIDI デバイスを同調させるもので、EVO5 から送信される MIDI クロック信号は、内部 BPM プロセッサによって換算され、1 秒あたりのビート (BPM) に影響してきます。外部 MIDI デバイスをシンクロさせたい場合は、忘れずに各デバイスをスレーブモードにしてください。

ミキサーが MIDI クロック信号を送信する設定になったら、RESTART ボタンで MIDI START/STOP をコントロールします。これで、デバイスが外部クロック信号の受信を始めるようになります。(デバイスによっては必須。)

MIDI コントロール設定は、付属のソフトウェア「EVO5 Librarian」を使うことで PC からのインポート/エクスポートを可能にします。これにより、アーティスト間で MIDI コントロール設定をシェアすることができます。

コントローラー

69 のコントローラーが MIDI データを送信します。EVO5 は 64 の MIDI コントロールパターンを持っているため、69 のコントローラーが最大 64 のメッセージをカスタマイズして送信できるということになります。

コントローラーをチャンネル 0、1、2、3、4 に設定すると、MIDI コントローラーとして機能するか、スタンダードモードになります。MIDI モードで一致するチャンネルが起動しているとき、各チャンネルの青色 LED が点灯します。チャンネル設定は独立しており、ユーザーが使用しやすくなっています。

EVO5 はまた、10 のボタンと 4 つのロータリーエンコーダからなる MIDI コントローラーセクションを有しており、ディスプレイ周辺に位置しています。ここでは各コントローラーの表示をカスタマイズすることができます。



MIDI コントロールのパターン

EVO5 は 64 パターンの MIDI コントロールを有しています。選択したパターンによって、各コントローラーは 64 のメッセージを送信することができるのです。このパターンは全てカスタマイズすることができます。

LIVE6 や TRAKTOR3 といったソフトウェアをプリセットパターンとしていくつか含んでいます。

パターンを選択し、MIDI ボタン (32) を長押ししながら 6 つのショートカット (34) を押します。

ディスプレイに、各パターンの MIDI セクションから実行されている機能が表示されます。

ショートカットが設定されていないパターンを選択したい場合は、MIDI ボタンを長押ししながら LOAD エンコーダを押して、64 のパターンから選択してください。

例: パターン 23 をショートカットに設定する

MIDI (32) を長押ししながら LOAD エンコーダを押し、リストから 23 を選択します。

割り当てたいショートカットボタンを押せば、編集は完了です。

MIDI コントロールの編集

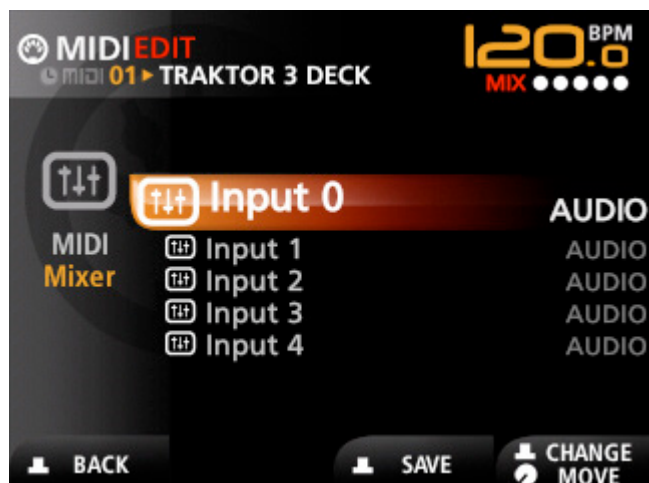
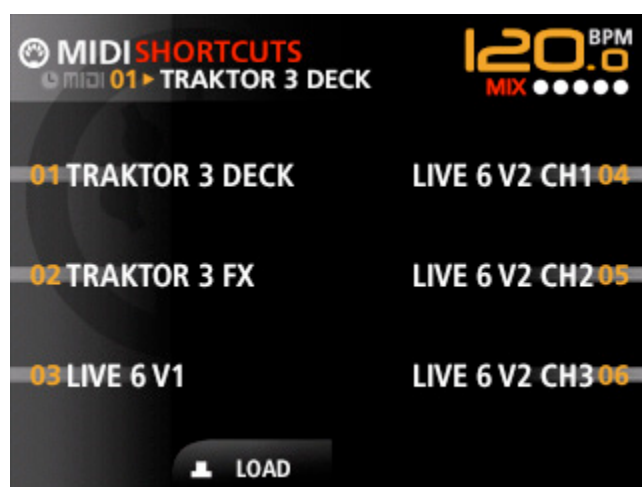
EVO5 は MIDI コントロールの設定も簡単です。

MIDI (32) と SETTINGS (31) を同時に押すと、MIDI ボタンがオレンジ色に点灯し、以下のメニューが表示されます。

MIXER.MIDI コントロール (チャンネル 0 ~ 4)

MIXER セクションからは、MIDI モードでのトラック 0 ~ 4 の設定が可能です。MIDI が選択されている時、トラックは MIDI コントローラーとして機能し、選択したトラックの青色 LED が点灯します。

AUDIO が選択されている時、トラックはオーディオコントロールミキサーとして機能します。TS が選択されている時、PHONO またはインプットライン信号は Firewire インプットに送られ、Firewire アウトプットチャンネルを通してミキサーに戻ります。TS モードは、ネイティブ機器で TRAKTOR SCRATCH を使用するためのモードです。このモードの時は、選択したトラックの青色 LED が点滅します。トラックは個別に設定可能です。

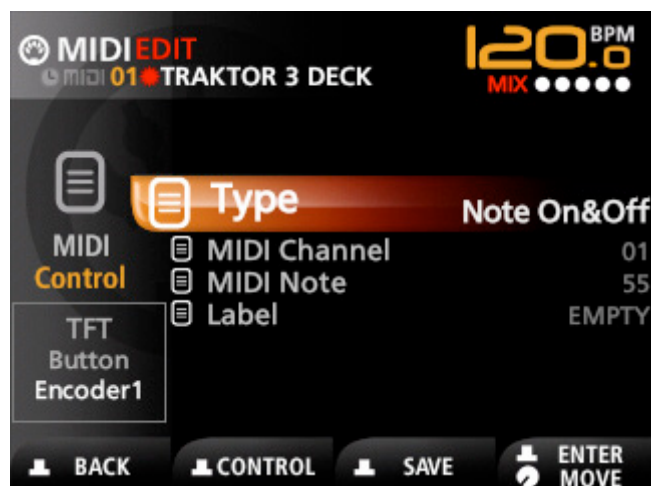


CONTROL: ミキサーのMIDIコントロールを編集する

CONTROL セクションでは、各ミキサーのコントローラーを設定できます。これにより、コントロールする外部デバイスの個別要求によって異なるタイプのメッセージを送ることができます。

ご自身のソフトウェアでコントロール可能なMIDIとプログラム方法については事前にいろいろ試してみることをお勧めします。

このオプションを選択すると、希望のコントローラーを選択させるメッセージが表示されます。選択すると、以下の中から設定されたコントローラーが表示されます。



□UNUSED… MIDIを送信していません。

□CONTROLLER… 起動中、コントロールチェンジ(CC)メッセージを送信します。

表示されるパラメーターはMIDIチャンネル(1~16)とMIDIコントロールチェンジナンバー(MIDI CC/0~127)です。

□NOTE ON&OFF… 押している間はノートオンメッセージを送信し、離すとノートオフメッセージを送信します。表示されるパラメーターはMIDIチャンネル(1~16)を選択している時と使用中のノート(MIDIノート/0~127)です。

□NOTE ON… 押している間はノートオンメッセージのみを送信します。表示されるパラメーターはMIDIチャンネル(1~16)と使用中のノート(MIDIノート/0~127)です。

□RELATIVE… 使用中、インクレメンタルコントロールチェンジ(CC)メッセージを送信します。センドバリューはコントローラーの実際値まで上昇します。時計回りで1、2、3、4と64まで増え、反時計回りで127、126、125、124と65まで減っていきます。

□ABSOLUTE… 使用中、コントロールチェンジ(CC)メッセージを送信します。時計回りにエンコーダを回すとインターナルカウンターで0~127のバリューを設定することができ、反時計回りに回すと減少できます。

□UP&DOWN… 起動中ずっと、ノートオン/ノートオフメッセージを送信します。時計回りの時(NOTE UP)と反時計回りの時(NOTE DOWN)では異なるノートバリューを使用します。

□REALTIME START(REALTIME STOP, REALTIME CONTINUE)… この設定でコントローラーを押すと、EVO5はMIDIリアルタイムスタート(またはストップ/継続/個別)メッセージを送信します。

MIDI セクションのコントローラー(ディスプレイ周辺にあるボタン)はディスプレイにもその機能を表示しています。ボタンの編集はLABELから行なえます。LABELを選択してENTERを押し、名前を入力してください。

保存せずに他のパターンを選択すると消えてしまいますのでご注意ください。

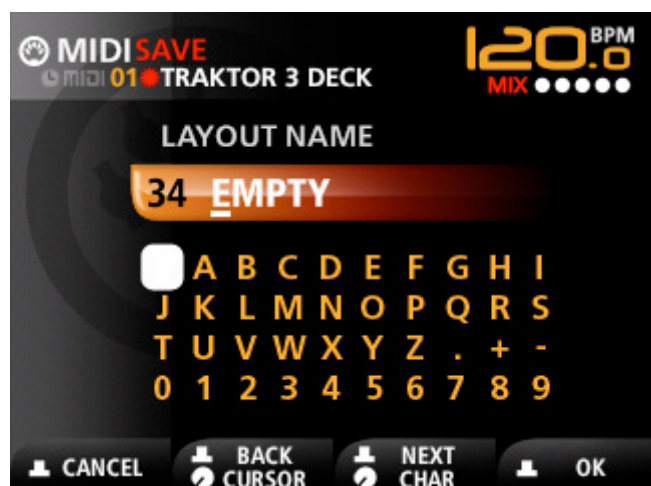
MIDIコントロールパターンの保存

希望の設定を入力したら、保存をしてください。自分の名前をつけて設定を保存しておけば、いつでも呼び出すことができます。

MIDIコントロール編集メニューでMIDI(32)とSETTING(31)を同時に押します。MIDIボタンのライトがオレンジ色に点灯します。

SAVEを押し、64のうちのいずれかを選択してOKを押すと、名前の編集が可能になります。

編集が終わったら、MIDIを押します。ライトが通常の緑色に戻ります。



自分の DJ ソフトウェアに EVO MIDI コントローラーを割り振る

各デバイスのつながり方は機器によって異なります。各自のソフトウェアでできる MIDI コントロールやプログラム方法については時間をかけて試してみることをお勧めします。

一般的には、DJ ソフトウェアがラーンモードを持っているので、ソフトウェアのファンクションの中からコントロールしたいものを選択して、実行したい MIDI コントローラーに移動します。（デバイスの指示に従ってください。）

DJ ソフトウェアはミキサーから送信される MIDI ノートを認識します。
これで、選択した機能をリモート操作できるようになります。

プリセットを使用する

ソフトウェア「EVO5 Librarian」は PC からプリセットされた MIDI 設定を送受信することが可能です。これにより、設定をアーティスト間で交換することができます。

SETTINGS

Inputs
Outputs
Shape
BPM
MIDI
FireWire
Advanced

Default Factory Values

Inputs

☒ Saved configuration
EQ Bypass

Input 0	OFF/ON
Input 1	OFF/ON
Input 2	OFF/ON
Input 3	OFF/ON
Input 4	OFF/ON

Inputs 1-4

Kill	F1=200Hz	(50Hz to 2kHz)
	F2=6,3kHz	(1kHz to 10kHz)
	Gain=+10dB	(+3 to +12dB)
Baxandall	F1=200Hz	(50Hz to 2kHz)
	F2=6,3kHz	(1kHz to 10kHz)
	Gain=±10dB	(±3 to ±12dB)

Micro input

F1	1,2kHz (305Hz to 5kHz)
Q	1,5 (1 to 20)
Gain	±12dB (±3 to ±12dB)

Talkover

Release time	0,5-3 sec.
Attenuation	-6 to -30dB

Micro effects

Mode	ON/OFF
Noise Gate Th.	-80 to 0dB
Compression	0 to 100%

Unit password

Outputs	Limiter		Select	OFF
				OUT 1
				OUT 2
		Threshold		0 dB (-10 to +10)
	Sensibility		OUT 1	0/+3/+6 dB
			OUT 2	0/+3/+6 dB
	REC Signal			
			MIX-PFL	
	Shape			
		XFader	Adjust cut-in-time: 2mm left (-1 to 8mm) 2mm right (-1 to 8mm)	
	DRY/WET	Adjust shape (0 to 100) (50)		
BPM	Source		Internal	
			MIDI Clock	
	BPM Range		60-120	
			70-140	
			80-160	
			90-180	
			100-200	
		110-220		
MIDI	MIDI Clock Output		OFF/ON	
	Monitor MIDI		OFF/ON	
	MIDI+Settings		Mixer input 0-4 AUDIO	
FireWire	Mixer to computer			
		Inputs 1-4	0/+18 dB; +10dB	
		MIX-PFL	0/+18 dB; +10dB	
	Computer to mixer			
		Inputs 0-4	-18/0dB; -10dB	
		MIX	-18/0dB; -10dB	

Advanced		🔒 User password	
Version			
Sampling rate	96.000 88.200 48.000 44.100		
Display			
	Brightness	1-10	
	Disable		
User configuration			
	Load	Config 1 Config 2 🔒 Config 3 🔒	
	Save	Config 1 Config 2 🔒 Config 3 🔒	
Change passwords			
	Unit password		
	User password		
Firmware upgrade			
Restore	Restore the original unit configuration, except for outputs.		
Back Up			

複数の DJ が共有できるように、EVO5 は 3 つの設定でカスタマイズが可能です。以下の設定のパラメーターは保存しておくことができます。(9 章でマークがついている部分です。)

- Tone コントロール(チャンネル 1-4 と MICRO)
- Talkover とマイクエフェクト
- REC アウトプット への MIX/PFL シグナルのアサイン
- Dry/Wet シェイプ
- BPM レンジ
- MIDI クロックアウト ON/OFF
- Firewire インプット / アウトプットレベル

起動中の設定を見るには SETTING を押し、タイトル下の "Config1, 2 or 3" を表示させます。

Configuration 1 はミキサーが ON の時に読み込まれ、自由にアクセスできます。Configuration 2/3 は USER パスワードがないとアクセスできません。

起動設定を変更するには、SETTING を開き、ADVANCED → USER CONFIG → LOAD → Configuration 2 または 3 を選択。

すぐにハードウェアは選択した設定にアップデートされます。初期設定ではパスワードなしでこれらの設定にアクセスできます。パスワードで保護したい場合は、SETTING → ADVANCED → CHANGE PASSWORDS → USER で、希望のパスワードを 8 文字以内で入力します。これで、パスワードがないとアクセスできなくなります。パスワードを削除したい場合は、空入力してください。

その他、

アウトプットコンプレッサーの調整

アウトプット感度の調整

などができます。これらはオーディオチェーンと合わさっており、UNIT パスワードと呼ばれる特別なパスワードで保護されています。初期設定では UNIT パスワードは "ECLER" です。変更する場合は SETTING → ADVANCED → CHANGE PASSWORDS → UNIT で変更できます。

* この UNIT パスワードは忘れないようにしておいてください。

○初期設定を再度設定する

SETTING → ADVANCED → RESTORE で初期設定に戻すことができます。

以下の設定が含まれています。

- エフェクトプリセット (追加・修正は失われます)
- MIDI LAYOUT (追加・修正は失われます)
- Configuration 1/2/3
- USER パスワードは削除されます
- UNIT パスワードは "ECLER" に戻ります

このオプションにアクセスするには UNIT パスワードを入力する必要があります。

○パスワードを忘れたら

RESTORE でパスワードを削除します。

UNIT パスワードを忘れた場合は、パスワードを入力するページで 3 秒間エンコーダ 2 を押します。コードが表示されますので、ECLER へ連絡し、新しいパスワードをもらってください。

8.1. グ라운드 ループ

すべての接続機器のグラウンド（接地）がループ状態にないかどうかを確認してください。また、各種機材を接続する際は必ずシールドの施されたケーブルを使用してください。これを怠ると、ハムノイズなどを誘発する原因となります。

8.2. 周辺のオーディオ機器の接続

オーディオ機器を接続するに当たって一般的に言える事項ですが、以下のことに留意してください。

※ケーブルはなるべく太いものをなるべく短く使用すること

※常にハイクオリティなケーブルを使用すること

EVO5 はレコーディングなどのリファレンスとしても使用できるグレードの DJ プリプロダクションミキサーであり、内部のパーツはすべて最高質のものを使用しています。せっかくいいミキサーを使ってもケーブルやコネクタが悪いのであれば意味がありません。

8.3. バックグラウンドノイズ

よくある質問や製品に対する意見として「バックグラウンドで発生しているノイズ」が取り上げられます。ECLER の DJ ミキサーのすべての製品は、パーツから回路構成まですべてが吟味されつくし、放送用グレードとしても遜色のない、すばらしい電気性能を持つ製品です。また、100V 以下で使用してもまったく電源にノイズが左右されることはありません。それでは、どうしたらノイズを減らすことができるのでしょうか？

たとえば、チャンネルフェーダーを 2 に設定してマスターフェーダーを 10 に設定するのと、チャンネルフェーダーを 10 に設定してマスターフェーダーを 2 に設定するのでは前者のほうが断然に発生するノイズレベルは大きくなります。また、他のチャンネルフェーダーを上げたままの状態にしているとその数が多いほどノイズの発生に影響します。また、同じように GAIN ノブを上げすぎてチャンネルフェーダーのレベルを小さくしたときも同じ状況が発生します。

これらのことに気をつけることができればよりよいコンディションでミキサーを使用することができます。

8.4. クリーニング

お手入れをする際には、中性洗剤を水に薄めた液体を使い、柔らかい布を使って軽くふき取るようにしてください。用材の入った有機性液体は本体の塗装をはがしたり、液体が内部に混入して回路に重大なダメージを与える可能性がありますので絶対におやめください。また、いかなる場合においてもフロントパネルから液体を混入させないようにしてください。

EVO5 Librarian

「EVO5 Librarian」はEVO5プリセットを使用するためのソフトウェアです。まずEVO5をFirewireでPCと接続してください。

プログラムには「EFFECTS」「MIDI」「SETTINGS」の3つがあり、上部のボタンで入ることができます。「EFFECTS」と「MIDI」には64のセルが表示され、「SETTINGS」では3つのセルが表示されます。スクリーンの左側に「GET」「SEND」「SAVE」の3つのボタンがあります。

EFFECTS と MIDI

この2つはほぼ同じ構成ですが、異なる点は「EFFECTS」がプリセット、「MIDI」がレイアウトを表示することです。

各セルがプリセットまたはレイアウトの番号と名前を表示しています。

セルをクリックすると選択された状態になります。

2つ以上のセルを選択する場合は、SHIFT または CTRL を押しながら新しいセルをクリックしてください。すでに選択されているセルをクリックすると、選択が解除されます。ENTER は全セルの選択、ESC は全セルの解除のショートカットの役割をします。

GET は接続している EVO5 からプリセット やレイアウト を持ってきて、完成させるためのボタンです。データを受信するとセルの色が一瞬変わります。

SEND は EVO5 にプリセット やレイアウト を送信するためのボタンです。データが送信されると、セルの色が一瞬変わります。

GET や SEND が起動している間、ディスプレイに表示されたボタンは使用できなくなります。エラーがでた場合はダイアログボックスが表示されます。(EVO5 を接続していない場合は、バージョンが違う、コミュニケーションタイムアウト、など。)

セルを選択したら、SAVE をクリックしてください。ターゲットホルダーを尋ねるダイアログボックスが出てくるので、プリセット やレイアウト を保存する場所を選び、ファイルに名前を付けてください。拡張子は「.e5p」のままにしておきます。PC のファイルからセルにプリセット やレイアウト を取り込む場合は、セルをダブルクリックしてください。ダイアログボックスが表示され、ファイルが選択できます。この時、名前はファイルからコピーされますので、名前を変更したい場合はPC側で変更してください。

SETTINGS

この3つのセルは各ユーザー設定を表示しています。設定数と名前が表示されています。

セルはクリックすると1つずつ選択できます。すでに選択されている場合は、SHIFT または CTRL を押しながらクリックして選択を解除してください。ESC は選択解除のショートカットの役割をします。

選択するとスクリーン下部にユーザー設定の概要が表示されます。

GET は接続している EVO5 からユーザー設定を取り込むのに使用します。データを受信するとセルの色が一瞬変わります。

SEND はユーザー設定を接続された EVO5 の CONFIG1 に送信するためのボタンです。データが送信されるとセルの色が一瞬変わります。

GET または SEND を使用している間は、スクリーン上の全てのボタンが使用できなくなります。エラーが出た場合はダイアログボックスが表示されます。(EVO5 を接続していない場合は、バージョンが違う、コミュニケーションタイムアウト、など。)

セルを選択したら、SAVE をクリックしてください。ターゲットホルダーを尋ねるダイアログボックスが出てくるので、設定を選択するファイルを選び、名前を付けてください。拡張子は「.e5p」のままにしておきます。

PC 上のファイルからセルにユーザー設定を取り込む場合は、セルをダブルクリックしてください。ダイアログボックスが表示され、ファイルが選択できます。

プログラムを終了すると、全テーブルのコンテンツは「WORKING」というホルダー（プログラムがインストールされたホルダーのサブホルダー）に入れられます。プログラムが起動している間は、コンテンツはこのホルダー内で検索されます。（もしこのホルダーが存在しない場合は、名前が数値で表示されているかもしれません。）初期設定はこのホルダー内にコピーされます。

EVO5 ファームウェアアップデート

最新のファームウェアをアップするには、PC と EVO5 を Firewire ケーブルで接続し、SETTING→ADVANCED→Firmware Upgrade と選択していきます。パスワード（初期パスワードは ECLER）を入力し、インストールしますか？と聞かれたら YES→Firmware Upgrade. Run the EVO5 Firmware Upgrade program in your computer to begin... とメッセージが表示されてから、EVO5 Firmware Upgrade となり、自動的にアップグレードされます。

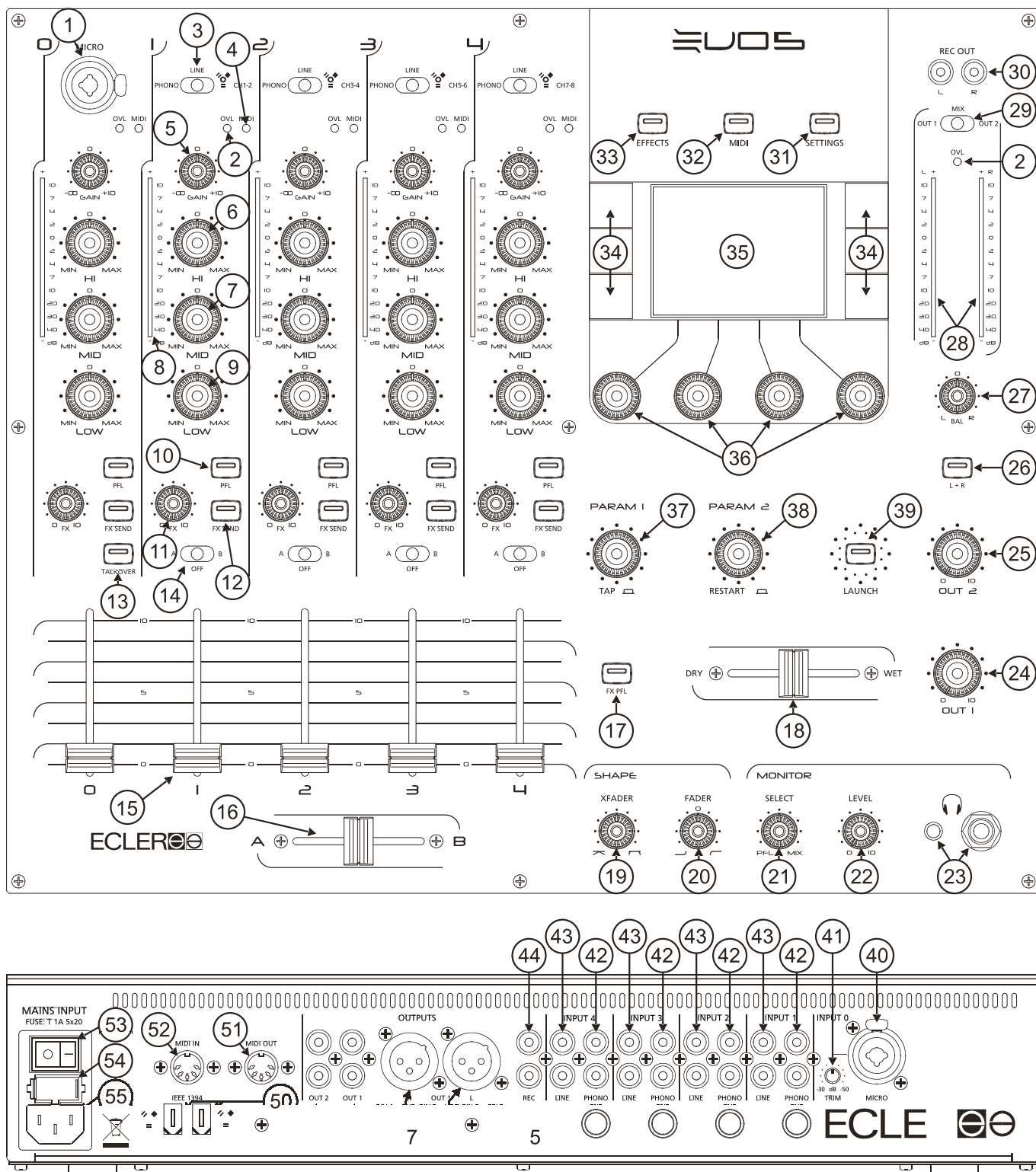
13. 本製品の技術的仕様

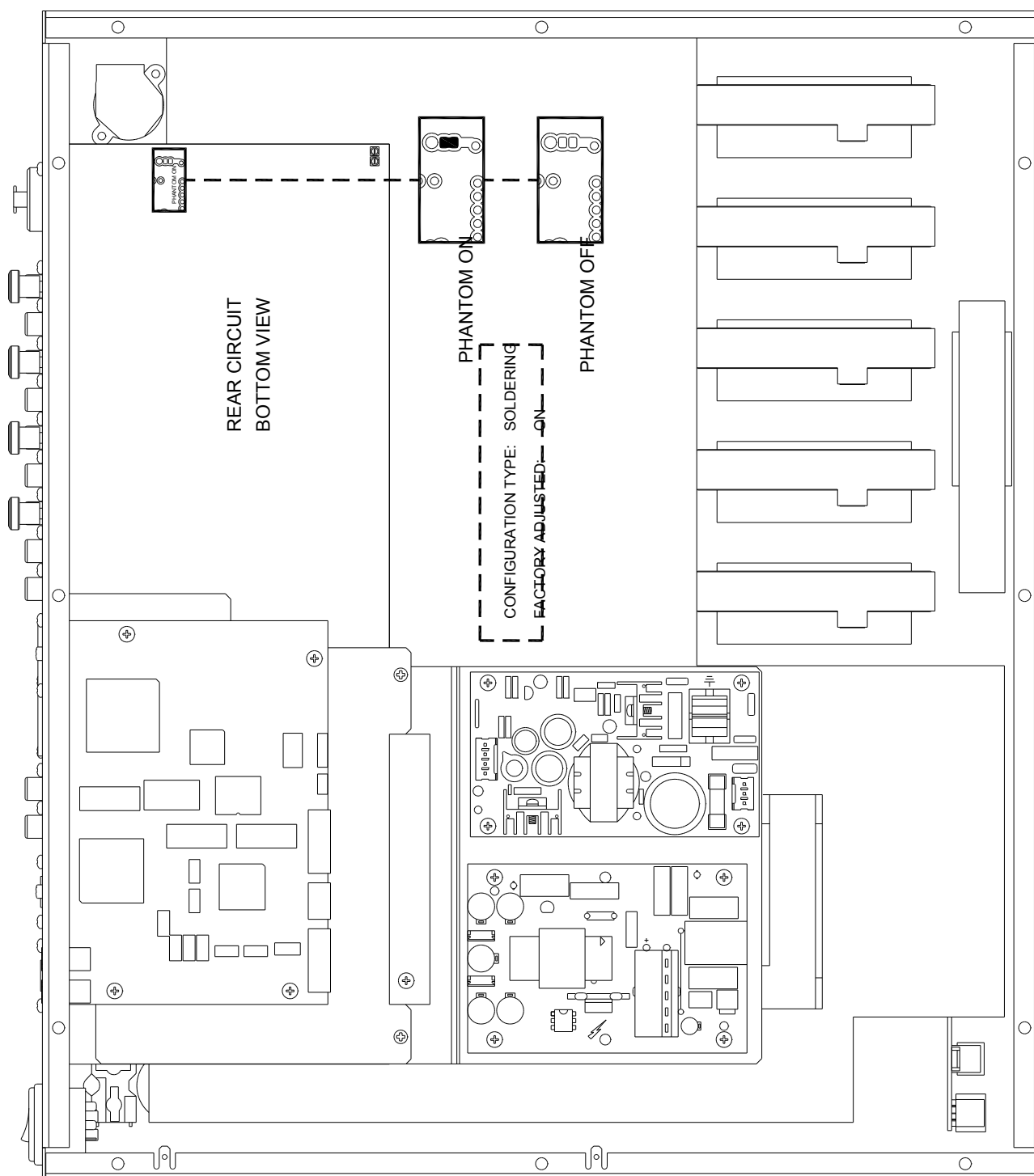
入力感度およびインピーダンス	LINE PHONO MICRO	0dBV/20kΩ -40dBV/50kΩ -50 (-30)dBV/>1kΩ
出力レベルおよびインピーダンス	OUT 1 (BAL) OUT 2 Output Limiter on OUT1 or OUT2 REC HEADPHONES MIDI	0dBV/600Ω 1V*(+6dB 2V) 0dBV/2.2kΩ 1V*(+6dB 2V) -10dBV to -10dBV 3 band compressor 0dBV/10kΩ 200mW/200Ω THD 1% USB-B / DIN 5 180°
周波数特性 -1dB(-3dB)	LINE MICRO PHONO	10Hz- (30kHz) 10Hz- (28kHz) RIAA ±0.5dB (20Hz-20kHz)
THD+N(総合ひずみ率)	LINE MICRO PHONO	<0.006% <0.01% <0.01%
CMRR	MICRO	>70dB @ 1kHz
SN 比(信号対ノイズの比率)	LINE MICRO PHONO	>100dB >95dB >96dB
トークオーバー	Attenuation: -6dB ~ -30 dB (soft config.) Release time: 0.5 秒 ~ 3 秒 (soft config.)	
マイクノイズゲート	-80dB ~ 0dB	
マイクコンプレッサー	0% ~ 100% efficiency	
Xフェーダーカッティングタイム微調整	-1mm~8mm, left & right independently	
シェイプ	Xフェーダー、フェーダー、Dry-Wet の微調整	
BPM	Automatic 60~220BPM in 6 ranges, internal or MIDI clock reference.	
Firewire input routing levels	-18dB ~ 0 dB.	
Firewire output routing levels	0dB ~ +18 dB.	
トーン	Full configurable and bypassable, including Microphone parametric.	
Built in squelch on unused channels		
ファンタム電源	+17.5VDC/5mA max.	
インプットゲイン	-∞ ~ +10dB	
定格電源入力	90-264VAC 47-63Hz	
定格消費電力	50VA	
寸法	433x370x80mm	
重量	6.40kg	

14. 各種機能の一覧

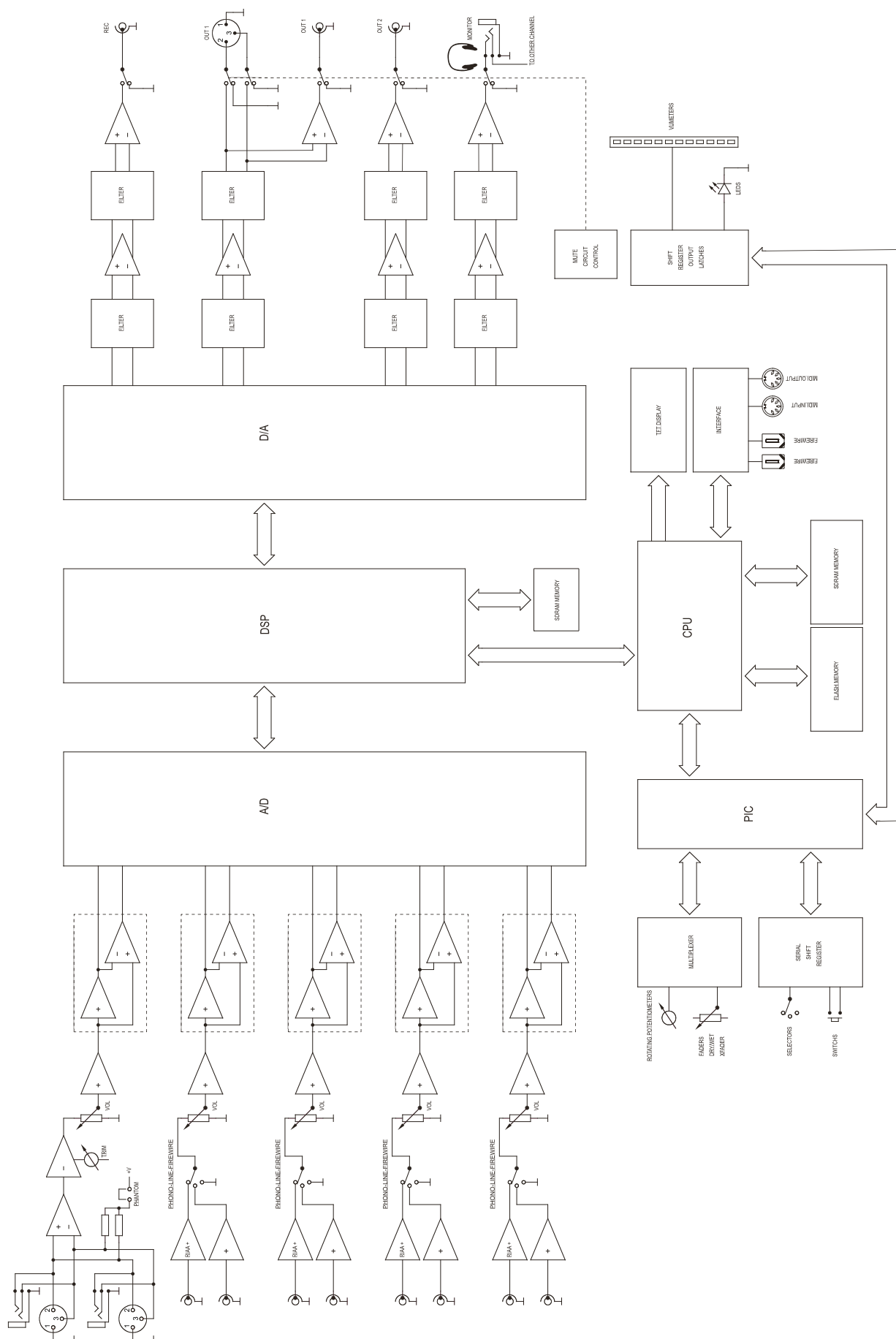
1. マイク XLR/JACK コンボコネクタ, MICRO
2. オーバーロード インジケーター, OVL
3. インプット セレクター
4. MIDI モード インジケーター
5. GAIN(ゲイン) : 入力感度調整
6. 高域周波数コントロール, TREBLE
7. 中域周波数コントロール, MID
8. LED VU メーター
9. 低域周波数コントロール, BAS
10. プリフェーダーリスニングコントロール(CUE), PFL
11. 外部エフェクター送りコントロール, FX SEND
12. エフェクト バスへの送りスイッチ, FX SEND
13. トークオーバーへの送りスイッチ, TALKOVER
14. XF スイッチへの送り, A/OFF/B
15. フェーダー
16. クロスフェーダーコントロール, A-B
17. FX PFL モニタリングスイッチ, FX PFL
18. エフェクトミックスクロスフェーダー, DRY-WET
19. クロスフェーダーシェイプアジャスター, FADER SHAPE
20. フェーダーシェイプアジャスト, FADER SHAPE
21. PFL/MIX モニタークロスフェード
22. ヘッドフォン音量コントロール, VOL
23. ステレオヘッドフォンジャックコネクタ
24. ボリュームコントロール, OUT1
25. ボリュームコントロール, OUT2
26. PGM モノラル出力設定ボタン, L+R
27. バランスコントロール, BAL
28. LED VU メーター
29. VU メーターディスプレイスイッチ, OUT1/MIX/OUT2
30. トップレコーディング RCA コネクタ, REC OUT
31. SETTINGS スイッチ
32. MIDI スイッチ
33. EFFECTS スイッチ
34. MIDI コントロールボタン/オンスクリーンソフトウェア
35. ディスプレイ
36. MIDI コントロールエンコーダ/オンスクリーンソフトウェア
37. エフェクト コントロールエンコーダ, PARAM 1
38. エフェクト コントロールエンコーダ, PARAM 2
39. エフェクト が PGM ボタンへ, LAUNCH
40. マイク XLR/JACK コンボコネクタ, MICRO
41. マイク入力感度調整, TRIM
42. フォノ 入力端子, PHONO
43. ライン入力, LINE
44. 録音用出力, REC
45. グラウンド, GND
46. レフト チャンネルバランス出力, OUT 1L
47. ライト チャンネルバランス出力, OUT 1R
48. RCA 出力, OUT 1
49. RCA 出力, OUT 2
50. Firewire 接続
51. MIDI 出力, MIDI OUT
52. MIDI 入力, MIDI IN
53. メイン電源スイッチ
54. ヒューズホルダー
58. 電源コネクターソケット

15. ファンクションダイアグラム





17. ブロックダイアグラム





ECLER Laboratorio de electro_acústica S.A.
Motors 166_168, 08038 Barcelona, Spain
INTERNET <http://www.ecler.com> E_mail: info@ecler.es
【日本正規輸入代理店】 グラフィカ株式会社
<http://www.graphica.ne.jp>